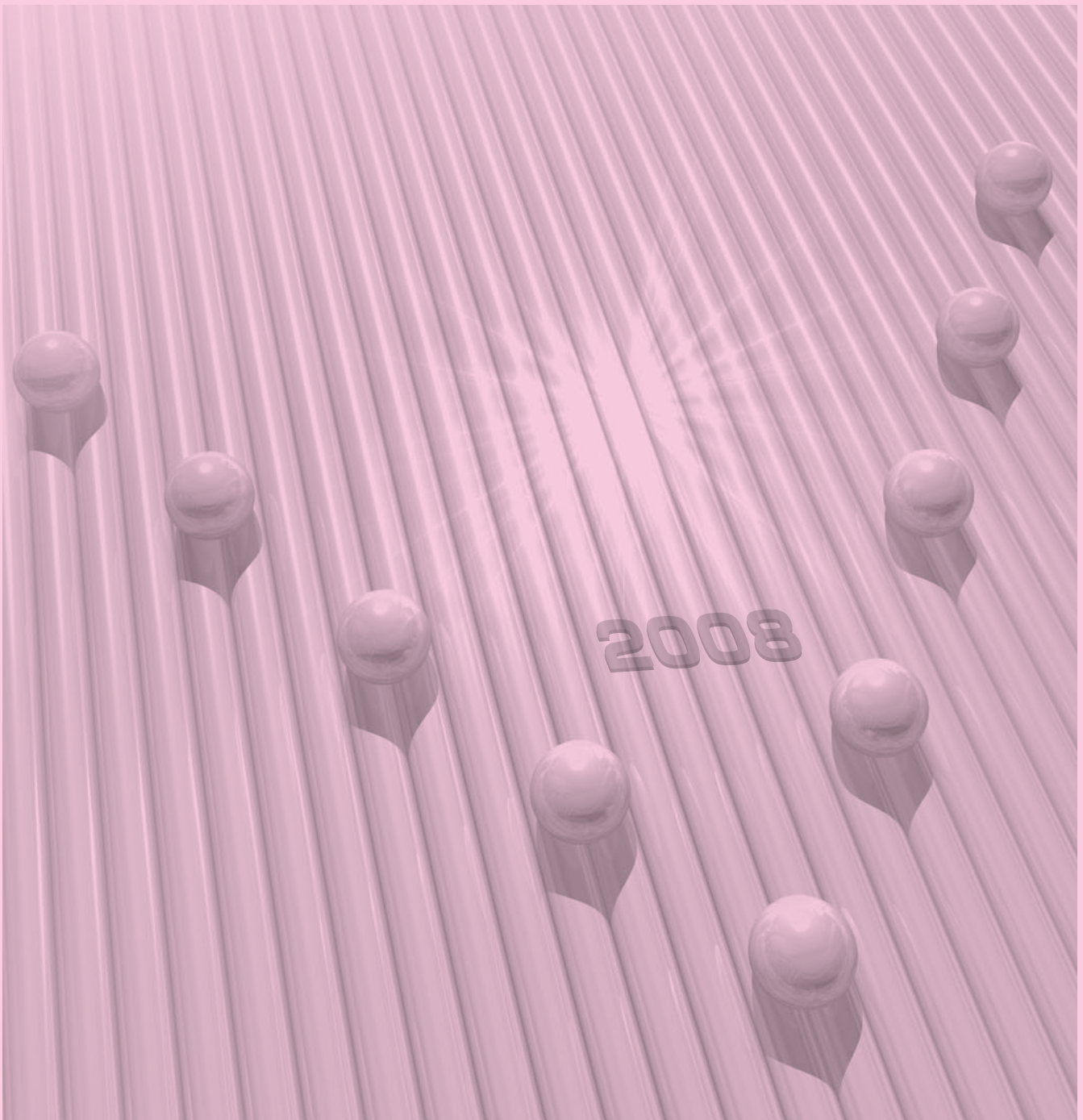


2008年度

シラバス

ドイツ語学科



獨協大学

— 目 次 —

シラバスの見方	-----	2
ドイツ語学科授業科目 (2005年度以降入学者用)		
学科基礎科目・学科共通科目	-----	3
学科専門科目 「Ⅰ類」部門・「Ⅱ類」部門	-----	4
学科専門科目 「Ⅲ類」部門・卒業論文	-----	5
ドイツ語学科授業科目 (2003～2004年度入学者用)		
学科基礎科目・学科共通科目	-----	6
学科専門科目 「Ⅰ類」部門・「Ⅱ類」部門	-----	7
学科専門科目 「Ⅲ類」部門・卒業論文	-----	8
外国語学部共通科目 (2003～2008年度入学者用)	-----	9
担当者別授業内容	-----	11

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

I ドイツ語学科授業科目について

【シラバスページの検索方法】

① ページ両端にあるインデックスで自分の入学年度に適合する目次ページを確認してください。

② 科目は学則別表と同じ順序で記載されています。

注：入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。

科目名とページ番号をよく確認してください。

【履修不可について】

① 目次には「履修不可」学科が記載されています。

「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

② 表記方法

外：外国語学部 養：国際教養学部 経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科 済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科 営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

総：総合政策学科

言：言語文化学科 全：ドイツ語学科以外の全学部学科

II シラバス本文の見方

①② 入学年度により科目名が異なります。

05年度以降・・・2005年度～2008年度入学者

04年度以前・・・2003年度～2004年度入学者

03年度以降・・・2003年度～2008年度入学者

* 2002年度以前入学生は、別途学部ごとに配布する読替え表を参照して科目名を確認してください。

③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載されています。

④ 学期の授業計画についての欄です。各回ごとに講義するテーマが記載されています。

⑤ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載されています。

⑥ 評価方法について記載されています。

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④ 第1週 春学期 第13週	
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④ 第1週 秋学期 第13週	
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

【注意事項】

1.履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ずシラバス本文(③の部分)および「授業時間割表」で確認し、履修登録してください。

2.定員

定員を設けている科目もあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

ドイツ語学科授業科目(2005年度以降入学者用)

学科基礎科目

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	総合ドイツ語 I	各担当教員	春		1	1	全	11
	総合ドイツ語 II	各担当教員	秋		1	1	全	11
	基礎ドイツ語 I	各担当教員	春		1	1	全	12
	基礎ドイツ語 II	各担当教員	秋		1	1	全	12
	ドイツ語LL I	各担当教員	春		1	1	全	13
	ドイツ語LL II	各担当教員	秋		1	1	全	13
	総合ドイツ語 III	各担当教員	春		1	2	全	14
	総合ドイツ語 IV	各担当教員	秋		1	2	全	14
	基礎ドイツ語 III	各担当教員	春		1	2	全	15
	基礎ドイツ語 IV	各担当教員	秋		1	2	全	15
09966	ドイツ語圏入門 I	木村 佐千子	春	水3	2	1	全	16
09967	ドイツ語圏入門 II	木村 佐千子	秋	水3	2	1	全	16
	基礎演習 I	各担当教員	春		2	2	全	17
	基礎演習 II	各担当教員	秋		2	2	全	17

学科共通科目

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	総合ドイツ語 V	各担当教員	春		1	3	全	18
	総合ドイツ語 VI	各担当教員	秋		1	3	全	18
13801	上級ドイツ語(時事)	Cl. ハーマン	春	火5	2	3		19
13802	上級ドイツ語(時事)	Cl. ハーマン	秋	火5	2	3		19
13799	上級ドイツ語(時事)	M. 鮎貝	春	月3	2	3		20
13800	上級ドイツ語(時事)	M. 鮎貝	秋	月2	2	3		20
13794	上級ドイツ語(会話)	Ch. W. シュバング	春	木4	2	3		21
13885	上級ドイツ語(会話)	Ch. W. シュバング	秋	木4	2	3		21
13789	上級ドイツ語(会話)	H. J. トロル	春	金1	2	3		22
13791	上級ドイツ語(会話)	H. J. トロル	秋	金1	2	3		22
13783	上級ドイツ語(会話)	J. シュトライト	春	月2	2	3		23
13784	上級ドイツ語(会話)	J. シュトライト	秋	月2	2	3		23
13785	上級ドイツ語(会話)	R. メッツィング	春	月1	2	3		24
13787	上級ドイツ語(会話)	R. メッツィング	秋	月1	2	3		24
13792	上級ドイツ語(会話)	S. ケルバー=阿部	春	金4	2	3		25
13793	上級ドイツ語(会話)	S. ケルバー=阿部	秋	金4	2	3		25
13803	上級ドイツ語(作文)	S. ケルバー=阿部	春	月3	2	3		26
13804	上級ドイツ語(作文)	S. ケルバー=阿部	秋	月3	2	3		26
13795	上級ドイツ語(作文)	D. フュルンケース	春	月1	2	3		27
13796	上級ドイツ語(作文)	D. フュルンケース	秋	月1	2	3		27
13797	上級ドイツ語(作文)	T. カーラー	春	木3	2	3		28
13798	上級ドイツ語(作文)	T. カーラー	秋	木3	2	3		28
10031	中世ドイツ語 I	I. アルブレヒト	春	水2	2	3		29
10032	中世ドイツ語 II	I. アルブレヒト	秋	水2	2	3		29
11481	通訳特殊演習 I	矢羽々 崇	春	金3	2	3		30
11482	通訳特殊演習 II	矢羽々 崇	秋	金3	2	3		30

学科専門科目

「Ⅰ類」部門

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
09968	ドイツ語学概論Ⅰ	金井 満	春	火1	2	1		31
09969	ドイツ語学概論Ⅱ	金井 満	秋	火1	2	1		31
09970	ドイツ文学概論Ⅰ	工藤 達也	春	月5	2	1		32
09971	ドイツ文学概論Ⅱ	工藤 達也	秋	月5	2	1		32
11726	ドイツ語学各論Ⅰ	木内 基実	春	金5	2	2		33
11727	ドイツ語学各論Ⅱ	木内 基実	秋	金5	2	2		33
11728	ドイツ文学各論Ⅰ	石丸 昭二	春	木4	2	2		34
11729	ドイツ文学各論Ⅱ	石丸 昭二	秋	木4	2	2		34
10033	ドイツ語講読(語学)	A. リプスキ	春	水2	2	3		35
10034	ドイツ語講読(語学)	A. リプスキ	秋	水2	2	3		35
10037	ドイツ語講読(語学)	山口 祐子	春	木3	2	3		36
10038	ドイツ語講読(語学)	山口 祐子	秋	木3	2	3		36
10035	ドイツ語講読(語学)	諏訪 功	春	木3	2	3		37
10036	ドイツ語講読(語学)	諏訪 功	秋	木3	2	3		37
10039	ドイツ語講読(文学)	伊藤 小弓	春	火1	2	3		38
10040	ドイツ語講読(文学)	伊藤 小弓	秋	火1	2	3		38
10045	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	春	木2	2	3		39
10046	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	秋	木2	2	3		39
10043	ドイツ語講読(文学)	石丸 昭二	春	水2	2	3		40
10044	ドイツ語講読(文学)	石丸 昭二	秋	水2	2	3		40
10041	ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	春	木1	2	3		41
10042	ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	秋	木1	2	3		41

「Ⅱ類」部門

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
09974	ドイツ文化史概論Ⅰ	山本 淳	春	木4	2	1		42
09975	ドイツ文化史概論Ⅱ	山本 淳	秋	木4	2	1		42
11734	ドイツの思想Ⅰ	船戸 満之	春	月2	2	2		43
11735	ドイツの思想Ⅱ	船戸 満之	秋	月2	2	2		43
11732	ドイツの音楽Ⅰ	木村 佐千子	春	木2	2	2		44
11733	ドイツの音楽Ⅱ	木村 佐千子	秋	木2	2	2		44
11736	ドイツの美術Ⅰ	青山 愛香	春	月3	2	2		45
11737	ドイツの美術Ⅱ	青山 愛香	秋	月3	2	2		45
11730	ドイツの演劇Ⅰ	大塚 直	春	火3	2	2		46
11731	ドイツの演劇Ⅱ	大塚 直	秋	火3	2	2		46
11738	ドイツ思想・芸術各論Ⅰ	下川 浩	春	火4	2	2		47
11739	ドイツ思想・芸術各論Ⅱ	下川 浩	秋	火4	2	2		47
10049	ドイツ語講読(思想)	小島 康男	春	木3	2	3		48
10050	ドイツ語講読(思想)	小島 康男	秋	木3	2	3		48
10047	ドイツ語講読(思想)	船戸 満之	春	月3	2	3		49
10048	ドイツ語講読(思想)	船戸 満之	秋	月3	2	3		49
10053	ドイツ語講読(思想)	前田 智	春	木1	2	3		50
10054	ドイツ語講読(思想)	前田 智	秋	木1	2	3		50
10051	ドイツ語講読(思想)	林部 圭一	春	月3	2	3		51
10052	ドイツ語講読(思想)	林部 圭一	秋	月3	2	3		51
10059	ドイツ語講読(芸術)	宮村 重徳	春	金2	2	3		52
10060	ドイツ語講読(芸術)	宮村 重徳	秋	金2	2	3		52
10057	ドイツ語講読(芸術)	洲崎 恵三	春	火4	2	3		53
10058	ドイツ語講読(芸術)	洲崎 恵三	秋	火4	2	3		53
10062	ドイツ語講読(芸術)	渡部 重美	春	木4	2	3		54
10063	ドイツ語講読(芸術)	渡部 重美	秋	木4	2	3		54
10055	ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	春	木1	2	3		55
10056	ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	秋	木1	2	3		55

「Ⅲ類」部門

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
09976	ドイツ史概論Ⅰ	古田 善文	春	木5	2	1		56
09977	ドイツ史概論Ⅱ	古田 善文	秋	木5	2	1		56
11740	ドイツの歴史Ⅰ	増谷 英樹	春	火3	2	2		57
11741	ドイツの歴史Ⅱ	増谷 英樹	秋	火3	2	2		57
11744	ドイツの社会・事情Ⅰ	A. ヴェルナー	春	木2	2	2		58
11745	ドイツの社会・事情Ⅱ	大重 光太郎	秋	火2	2	2		58
11746	ドイツの地誌・民俗Ⅰ	飯嶋 曜子	春	火3	2	2		59
11747	ドイツの地誌・民俗Ⅱ	飯嶋 曜子	秋	火3	2	2		59
11748	ドイツの政治・対外関係Ⅰ	黒田 多美子	春	水2	2	2		60
11749	ドイツの政治・対外関係Ⅱ	黒田 多美子	春	木3	2	2		61
11750	ドイツの経済Ⅰ	大重 光太郎	春	木1	2	2		62
11751	ドイツの経済Ⅱ	大重 光太郎	秋	木1	2	2		62
11742	ドイツの法律Ⅰ	常岡 史子	秋	木1	2	2	法	63
11743	ドイツの法律Ⅱ	宗田 眞行	秋	木3	2	2	法	64
10066	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	春	火3	2	3		65
10067	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	秋	火3	2	3		65
10068	ドイツ語講読(歴史)	黒田 多美子	春	火2	2	3		66
10069	ドイツ語講読(歴史)	黒田 多美子	春	木2	2	3		67
10064	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	春	水2	2	3		68
10065	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	秋	水2	2	3		68
10074	ドイツ語講読(社会)	A. ヴェルナー	春	水2	2	3		69
10075	ドイツ語講読(社会)	A. ヴェルナー	春	金2	2	3		70
10072	ドイツ語講読(社会)	永岡 敦	春	火2	2	3		71
10073	ドイツ語講読(社会)	永岡 敦	秋	火2	2	3		71
10076	ドイツ語講読(社会)	古田 善文	春	火2	2	3		72
10077	ドイツ語講読(社会)	古田 善文	秋	火2	2	3		72
10070	ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	春	金3	2	3		73
10071	ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	秋	金3	2	3		73
08466	卒業論文	矢羽々 崇	通年	水3	8	4		74

ドイツ語学科授業科目(2003～2004年度入学者用)

学科基礎科目

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	ドイツ語 I a(総合)	各担当教員	春		1	1	全	11
	ドイツ語 I b(総合)	各担当教員	秋		1	1	全	11
	ドイツ語 I a(基礎)	各担当教員	春		1	1	全	12
	ドイツ語 I b(基礎)	各担当教員	秋		1	1	全	12
	ドイツ語 I a(LL)	各担当教員	春		1	1	全	13
	ドイツ語 I b(LL)	各担当教員	秋		1	1	全	13
	ドイツ語 II a(総合)	各担当教員	春		1	2	全	14
	ドイツ語 II b(総合)	各担当教員	秋		1	2	全	14
	ドイツ語 II a(応用)	各担当教員	春		1	2	全	15
	ドイツ語 II b(応用)	各担当教員	秋		1	2	全	15
00510	ドイツ語圏入門a	木村 佐千子	春	水3	2	1	全	16
00511	ドイツ語圏入門b	木村 佐千子	秋	水3	2	1	全	16
	基礎演習a	各担当教員	春		2	2	全	17
	基礎演習b	各担当教員	秋		2	2	全	17

学科共通科目

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	総合ドイツ語Ⅲa	各担当教員	春		1	3	全	18
	総合ドイツ語Ⅲb	各担当教員	秋		1	3	全	18
10018	ドイツ語Ⅲ(会話)	Ch. W. シュパング	春	木4	2	3		21
10019	ドイツ語Ⅲ(会話)	Ch. W. シュパング	秋	木4	2	3		21
10017	ドイツ語Ⅲ(会話)	H. J. トロル	春	金1	2	3		22
10137	ドイツ語Ⅲ(会話)	H. J. トロル	秋	金1	2	3		22
10015	ドイツ語Ⅲ(会話)	J. シュトライト	春	月2	2	3		23
10016	ドイツ語Ⅲ(会話)	J. シュトライト	秋	月2	2	3		23
10013	ドイツ語Ⅲ(会話)	R. メッツィング	春	月1	2	3		24
10014	ドイツ語Ⅲ(会話)	R. メッツィング	秋	月1	2	3		24
10011	ドイツ語Ⅲ(会話)	S. ケルバー＝阿部	春	金4	2	3		25
10012	ドイツ語Ⅲ(会話)	S. ケルバー＝阿部	秋	金4	2	3		25
10021	ドイツ語Ⅲ(作文)	D. フュルンケース	春	月1	2	3		27
10020	ドイツ語Ⅲ(作文)	D. フュルンケース	秋	月1	2	3		27
10028	ドイツ語Ⅲ(作文)	T. カーラー	春	木3	2	3		28
10027	ドイツ語Ⅲ(作文)	T. カーラー	秋	木3	2	3		28
10023	上級ドイツ語(会話)	Cl. ハーマン	春	火5	2	3		19
10024	上級ドイツ語(会話)	Cl. ハーマン	秋	火5	2	3		19
10026	上級ドイツ語(会話)	M. 鮎貝	春	月3	2	3		20
10025	上級ドイツ語(会話)	M. 鮎貝	秋	月2	2	3		20
10029	上級ドイツ語(作文)	S. ケルバー＝阿部	春	月3	2	3		26
10030	上級ドイツ語(作文)	S. ケルバー＝阿部	秋	月3	2	3		26
10031	中世ドイツ語 I	I. アルブレヒト	春	水2	2	3		29
10032	中世ドイツ語 II	I. アルブレヒト	秋	水2	2	3		29
11481	通訳特殊演習 I	矢羽々 崇	春	金3	2	3		30
11482	通訳特殊演習 II	矢羽々 崇	秋	金3	2	3		30

学科専門科目

「Ⅰ類」部門

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00681	ドイツ語学概論a	金井 満	春	火1	2	1		31
06751	ドイツ語学概論b	金井 満	秋	火1	2	1		31
06690	ドイツ文学概論a	工藤 達也	春	月5	2	1		32
06691	ドイツ文学概論b	工藤 達也	秋	月5	2	1		32
06604	ドイツ語学各論a	木内 基実	春	金5	2	2		33
06605	ドイツ語学各論b	木内 基実	秋	金5	2	2		33
08095	ドイツ文学各論a	石丸 昭二	春	木4	2	2		34
08096	ドイツ文学各論b	石丸 昭二	秋	木4	2	2		34
10033	ドイツ語講読(語学)	A. リプスキ	春	水2	2	3		35
10034	ドイツ語講読(語学)	A. リプスキ	秋	水2	2	3		35
10037	ドイツ語講読(語学)	山口 祐子	春	木3	2	3		36
10038	ドイツ語講読(語学)	山口 祐子	秋	木3	2	3		36
10035	ドイツ語講読(語学)	諏訪 功	春	木3	2	3		37
10036	ドイツ語講読(語学)	諏訪 功	秋	木3	2	3		37
10039	ドイツ語講読(文学)	伊藤 小弓	春	火1	2	3		38
10040	ドイツ語講読(文学)	伊藤 小弓	秋	火1	2	3		38
10045	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	春	木2	2	3		39
10046	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	秋	木2	2	3		39
10043	ドイツ語講読(文学)	石丸 昭二	春	水2	2	3		40
10044	ドイツ語講読(文学)	石丸 昭二	秋	水2	2	3		40
10041	ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	春	木1	2	3		41
10042	ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	秋	木1	2	3		41

「Ⅱ類」部門

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
06740	ドイツ文化史概論a	山本 淳	春	木4	2	1		42
06741	ドイツ文化史概論b	山本 淳	秋	木4	2	1		42
06679	ドイツの思想a	船戸 満之	春	月2	2	2		43
06643	ドイツの思想b	船戸 満之	秋	月2	2	2		43
06544	ドイツの音楽a	木村 佐千子	春	木2	2	2		44
06545	ドイツの音楽b	木村 佐千子	秋	木2	2	2		44
06709	ドイツの美術a	青山 愛香	春	月3	2	2		45
06710	ドイツの美術b	青山 愛香	秋	月3	2	2		45
06579	ドイツの演劇a	大塚 直	春	火3	2	2		46
06580	ドイツの演劇b	大塚 直	秋	火3	2	2		46
06626	ドイツ思想・芸術各論a	下川 浩	春	火4	2	2		47
06627	ドイツ思想・芸術各論b	下川 浩	秋	火4	2	2		47
10049	ドイツ語講読(思想)	小島 康男	春	木3	2	3		48
10050	ドイツ語講読(思想)	小島 康男	秋	木3	2	3		48
10047	ドイツ語講読(思想)	船戸 満之	春	月3	2	3		49
10048	ドイツ語講読(思想)	船戸 満之	秋	月3	2	3		49
10053	ドイツ語講読(思想)	前田 智	春	木1	2	3		50
10054	ドイツ語講読(思想)	前田 智	秋	木1	2	3		50
10051	ドイツ語講読(思想)	林部 圭一	春	月3	2	3		51
10052	ドイツ語講読(思想)	林部 圭一	秋	月3	2	3		51
10059	ドイツ語講読(芸術)	宮村 重徳	春	金2	2	3		52
10060	ドイツ語講読(芸術)	宮村 重徳	秋	金2	2	3		52
10057	ドイツ語講読(芸術)	洲崎 恵三	春	火4	2	3		53
10058	ドイツ語講読(芸術)	洲崎 恵三	秋	火4	2	3		53
10062	ドイツ語講読(芸術)	渡部 重美	春	木4	2	3		54
10063	ドイツ語講読(芸術)	渡部 重美	秋	木4	2	3		54
10055	ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	春	木1	2	3		55
10056	ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	秋	木1	2	3		55

「Ⅲ類」部門

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00610	ドイツ史概論a	古田 善文	春	木5	2	1		56
00611	ドイツ史概論b	古田 善文	秋	木5	2	1		56
06676	ドイツの歴史a	増谷 英樹	春	火3	2	2		57
06677	ドイツの歴史b	増谷 英樹	秋	火3	2	2		57
06577	ドイツの社会・事情a	A. ヴェルナー	春	木2	2	2		58
06578	ドイツの社会・事情b	大重 光太郎	秋	火2	2	2		58
06522	ドイツの地誌・民俗a	飯嶋 曜子	春	火3	2	2		59
06523	ドイツの地誌・民俗b	飯嶋 曜子	秋	火3	2	2		59
06528	ドイツの政治・対外関係a	黒田 多美子	春	水2	2	2		60
06529	ドイツの政治・対外関係b	黒田 多美子	春	木3	2	2		61
06526	ドイツの経済a	大重 光太郎	春	木1	2	2		62
06527	ドイツの経済b	大重 光太郎	秋	木1	2	2		62
09693	ドイツの法律a	常岡 史子	秋	木1	2	2	法	63
09694	ドイツの法律b	宗田 貴行	秋	木3	2	2	法	64
10066	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	春	火3	2	3		65
10067	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	秋	火3	2	3		65
10068	ドイツ語講読(歴史)	黒田 多美子	春	火2	2	3		66
10069	ドイツ語講読(歴史)	黒田 多美子	春	木2	2	3		67
10064	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	春	水2	2	3		68
10065	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	秋	水2	2	3		68
10074	ドイツ語講読(社会)	A. ヴェルナー	春	水2	2	3		69
10075	ドイツ語講読(社会)	A. ヴェルナー	春	金2	2	3		70
10072	ドイツ語講読(社会)	永岡 敦	春	火2	2	3		71
10073	ドイツ語講読(社会)	永岡 敦	秋	火2	2	3		71
10076	ドイツ語講読(社会)	古田 善文	春	火2	2	3		72
10077	ドイツ語講読(社会)	古田 善文	秋	火2	2	3		72
10070	ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	春	金3	2	3		73
10071	ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	秋	金3	2	3		73
08466	卒業論文	矢羽々 崇	通年	水3	8	4		74

外国語学部共通科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07690	総合講座	若森 栄樹	春	水3		2	1	養・経・法	75
07691	総合講座	若森 栄樹	秋	水3		2	1	養・経・法	75
00220	情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	50	2	1	養・経・法	76
	情報科学概論b	休講							
	情報科学各論(入門)	各担当教員						養・経・法	77
00208		内田 俊郎	春	木4	50	2	1		
00058		金子 憲一	春	月5	60	2	1		
00093		田中 雅英	春	火2	60	2	1		
00074		田中 雅英	春	火3	60	2	1		
00138		長崎 等	春	水1	60	2	1		
00253		松山 恵美子	春	月2	60	2	1		
13304		内田 俊郎	秋	木4	60	2	1		
		情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員						養・経・法
00019		内田 俊郎	春	木2	60	2	1		
00044		金子 憲一	春	月4	60	2	1		
00255		松山 恵美子	春	月3	60	2	1		
13306		内田 俊郎	秋	木3	60	2	1		
00076		田中 雅英	秋	火2	60	2	1		
00109		田中 雅英	秋	火4	60	2	1		
00141		長崎 等	秋	水1	60	2	1		
00231		松山 恵美子	秋	月3	60	2	1		
13162	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金子 憲一	春	月3	60	2	1		79
13164		金子 憲一	秋	月3	60	2	1		79
	情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員						養・経・法	80
00195		内田 俊郎	春	木3	60	2	1		
00210		内田 俊郎	秋	木2	60	2	1		
00060		金子 憲一	秋	月4	60	2	1		
00096		田中 雅英	秋	火3	60	2	1		
	情報科学各論(中級)								
15225	(プレゼンテーション)	金井 満	春	火2	30	2	1	養・経・法	81
15226	(プレゼンテーション)	金井 満	秋	火2	30	2	1	養・経・法	81
15227	(万能ツールとしてのExcel)	金井 満	春	木2	30	2	1	養・経・法	82
15228	(万能ツールとしてのExcel)	金井 満	秋	木2	30	2	1	養・経・法	82
15229	(Wordを使いこなす)	工藤 達也	春	火3	30	2	1	養・経・法	83
15230	(Wordを使いこなす)	工藤 達也	秋	火3	30	2	1	養・経・法	83
14281	(HTML正しく伝えるために)	田中 善英	春	金4	30	2	1	養・経・法	84
14282	(HTML美しく見せるために)	田中 善英	秋	金4	30	2	1	養・経・法	84
00048	(HTML応用1)	金子 憲一	秋	月5	30	2	1	養・経・法	85
00239	(表計算応用1)	松山 恵美子	秋	月2	30	2	1	養・経・法	86
15231	(自然言語データベース(コーパス)の処理技法入門1)	木村 恵	春	木4	50	2	2	英・養・経・法	87
15232	(自然言語データベース(コーパス)の処理技法入門2)	木村 恵	秋	木4	50	2	2	英・養・経・法	87
15233	(言葉の特徴をコンピュータで見る1)	吉成 雄一郎	春	金2	50	2	2	英・養・経・法	88
15234	(言葉の特徴をコンピュータで見る2)	吉成 雄一郎	秋	金2	50	2	2	英・養・経・法	88
00087	経済原論a	野村 容康	春	火1	350	2	1	養・経・法	89
00088	経済原論b	野村 容康	秋	火1	350	2	1	養・経・法	89
	社会心理学a	休講							
	社会心理学b	休講							

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

05年度以降 04年度以前	総合ドイツ語 I ドイツ語 I a (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、1 年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenz -rahmen für Sprachen」の A1 レヴェルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト付属の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<p><i>Schritte international 1</i>（全 7 課）を学習します。1 課あたりおおむね 1 週間半程度の進捗とし、学期末に復習と口頭試験の準備をする時間を設ける予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Schritte international 1</i> および別冊の単語集を初回の授業までに購入して持参してください。 （既習クラスは別教材です。）</p>		<p>出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 I の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 II へ進めません。</p>	

05年度以降 04年度以前	総合ドイツ語 II ドイツ語 I b (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、1 年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenz -rahmen für Sprachen」の A1 レヴェルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト付属の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<p><i>Schritte international 2</i>（全 7 課）を学習します。1 課あたりおおむね 1 週間半程度の進捗とし、学期末に復習と口頭試験の準備をする時間を設ける予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Schritte international 2</i> および別冊の単語集を初回の授業までに購入して持参してください。 （既習クラスは別教材です。）</p>		<p>出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。総合ドイツ語 II の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 III へ進めません。</p>	

05年度以降 04年度以前	基礎ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅰa（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語運用能力の土台となる文法を中心に、ドイツ語の基礎を学んでいきます。はじめて学習する言語なので、2学期間で発音から初級文法を習得します。</p> <p>ドイツ語を身につけるためには、授業時間中だけでなく、予習・復習をしっかりとすることが大切です。継続的に積み重ねて学ぶことを意識してください。</p> <p>なお、辞書については、授業中に指示します。</p> <p>★一学期の間に7回以上欠席すると、評価の対象となりません（F評価）ので、注意してください。</p> <p>★既習クラス（1組）は、ネイティブ教員による別メニューの授業が行われます。第1回授業時に教科書などの指示を受けてください。統一試験は実施しません。</p>		春学期中に第8課まで終える予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		学期中2回の中間テストと期末統一試験、出席から判断	

05年度以降 04年度以前	基礎ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅰb（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の記述を参照。</p> <p>なお、秋学期の授業開始後、早い時期に「不規則動詞の三基本形（不定詞・過去基本形・過去分詞）」に関するテストを実施します。成績に反映されますので、夏休み中にしっかり覚えてきてください。</p>		秋学期中に第16課まで終える予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		学期はじめに行われる復習テストと1回の中間テスト、期末統一試験、出席から判断	

05年度以降 04年度以前	ドイツ語 LL I ドイツ語 I a (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビデオ教材を用い、ドイツ語による実践的なコミュニケーション能力や聴き取り能力の養成を図ります。</p> <p>授業はCAL教室で行います。</p> <p>教材は、各ユニットごとに、さまざまな日常的シチュエーションを扱っていますが、それぞれの場面で、重要表現を用いたパターン練習、会話練習を行ったり、聴き取りの訓練を行ったりします。</p> <p>それにより、ドイツ語圏で生活したり、ドイツ語圏を旅行したりするときに役立つ基本的で実践的なドイツ語運用能力を身につけましょう。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 Unit 1</p> <p>3 同上</p> <p>4 Unit 2</p> <p>5 同上</p> <p>6 Unit 3</p> <p>7 同上</p> <p>8 Unit 4</p> <p>9 同上</p> <p>10 Unit 5</p> <p>11 同上</p> <p>12 同上</p> <p>13 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、プリントの形で配布します。		学期末統一試験、出席状況、授業への参加度を基準に、総合的に判断し、評価を出します。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ語 LL II ドイツ語 I b (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビデオ教材を用い、ドイツ語による実践的なコミュニケーション能力や聴き取り能力の養成を図ります。</p> <p>授業はCAL教室で行います。</p> <p>教材は、各ユニットごとに、さまざまな日常的シチュエーションを扱っていますが、それぞれの場面で、重要表現を用いたパターン練習、会話練習を行ったり、聴き取りの訓練を行ったりします。</p> <p>それにより、ドイツ語圏で生活したり、ドイツ語圏を旅行したりするときに役立つ基本的で実践的なドイツ語運用能力を身につけましょう。</p> <p>*秋学期は、授業の一部を使って、補助教材による発音および聴き取りに特化した練習を行います。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 Unit 6</p> <p>3 同上</p> <p>4 Unit 7</p> <p>5 同上</p> <p>6 Unit 8</p> <p>7 同上</p> <p>8 Unit 9</p> <p>9 同上</p> <p>10 Unit 10</p> <p>11 同上</p> <p>12 同上</p> <p>13 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは、プリントの形で配布します。</p> <p><補助教材> Deutsche Phonetik für japanische Studenten (購入については、授業中に指示します。)</p>		学期末統一試験、出席状況、授業への参加度を基準に、総合的に判断し、評価を出します。	

05年度以降 04年度以前	総合ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅱa(総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員(週2コマ)と日本人教員(週1コマ)(2名のネイティブ教員が担当するクラスもあり)の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語2年目の今年は、「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA2レベルの水準達成を目指します。また、3年間の総合ドイツ語履修により、Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目標とします。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<p><i>Schritte international 3</i> (全7課)を学習します。1課あたりおおむね1週間半程度の進捗とし、学期末に復習と口頭試験の準備をする時間を設ける予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Schritte international 3</i> の教科書を初回の授業までに購入して持参してください。 (既習クラスは別教材です。)</p>		<p>出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。総合ドイツ語Ⅲの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅳへ進めません。</p>	

05年度以降 04年度以前	総合ドイツ語Ⅳ ドイツ語Ⅱb(総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員(週2コマ)と日本人教員(週1コマ)(2名のネイティブ教員が担当するクラスもあり)の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語2年目の今年は、「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA2レベルの水準達成を目指します。また、3年間の総合ドイツ語履修により、Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目標とします。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<p><i>Schritte international 4</i> (全7課)を学習します。1課あたりおおむね1週間半程度の進捗とし、学期末に復習と口頭試験の準備をする時間を設ける予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Schritte international 4</i> の教科書を初回の授業までに購入して持参してください。 (既習クラス・再履修クラスは別教材です。)</p>		<p>出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。総合ドイツ語Ⅳの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅴへ進めません。</p>	

05年度以降 04年度以前	基礎ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅱa (応用)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次での基礎をふまえ、2年次では残りの文法項目を最初に終え、その後に、中級ドイツ語へのステップアップを目指します。</p> <p>中心となるのは読解力と作文力の養成であり、そのためには体系的な語彙力の強化も必要です。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。また、授業時には教科書、辞書、1年次の文法教科書を必ず持参してください。</p> <p>なお、春学期末試験の試験結果次第では、一部クラス替えを行います。</p> <p>既習クラスはネイティブ教員による作文を中心とした授業を行います。(統一試験は行いません。)</p>		<p>4月 第1週: 統一復習テスト Übung macht den Meister の17・18課</p> <p>5月ー 『ドイツ語読みかた教室』 Lektion 1～Lektion 6</p> <p>2課ごとに小テスト</p> <p>春学期学年末 統一試験</p> <p>夏休み 宿題!</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷弘道, ウズラ・大谷 『ドイツ語読みかた教室 中級表現練習読本』 三修社。 1年次の文法教科書		2課ごとの小テストと期末統一試験, 出席から判断します。	

05年度以降 04年度以前	基礎ドイツ語Ⅳ ドイツ語Ⅱb (応用)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次での基礎をふまえ、2年次では残りの文法項目を最初に終え、その後に、中級ドイツ語へのステップアップを目指します。</p> <p>中心となるのは読解力と作文力の養成であり、そのためには体系的な語彙力の強化も必要です。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。また、授業時には教科書、辞書、1年次の文法教科書を必ず持参してください。</p> <p>なお、春学期末試験の試験結果次第では、一部クラス替えを行います。</p> <p>既習クラスはネイティブ教員による作文を中心とした授業を行います。(統一試験は行いません。)</p>		<p>秋学期 『ドイツ語読みかた教室』 Lektion 7～Lektion 12</p> <p>教科書終了後に各クラスごとに練習</p> <p>9月第一週に実力テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷弘道, ウズラ・大谷 『ドイツ語読みかた教室 中級表現練習読本』 三修社。 1年次の文法教科書		2課ごとの小テストと期末統一試験, 出席から判断します。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ語圏入門Ⅰ ドイツ語圏入門 a	担当者	木村 佐千子 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標</p> <p>ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。</p> <p>1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>2) 同じく第1学期から履修できる「ドイツ語学概論」「ドイツ文学概論」「ドイツ文化史概論」「ドイツ史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像(いわば見取り図)を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。</p> <p>3) レポートの書きかた: 参考文献と自分の意見の区別のしかた、参考文献の挙げかたや引用方法を学ぶ。</p> <p>講義概要</p> <p>各担当者が、地理、EU、ドイツ語圏の歴史、日独交流史、食文化、教育、マスメディア、音楽 etc.といったテーマで基本的な講義をします。レポートの書きかたや参考文献の探しかたについてお話しする回も設ける予定です。</p> <p><u>*ドイツ語圏入門ⅠまたはⅡの単位を取得することが、2年次の基礎演習の履修条件です。</u></p>		<p>第1回の授業時に、本学期的講義計画表を配布します。また、課題図書、レポートの書き方、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。(必修授業ですので、第1週から出席をとります。)</p> <p>5月上旬頃のレポートを課します。</p> <p>*連絡事項を教務課のドイツ語学科掲示板にてお知らせすることがありますので、掲示板を定期的に確認してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布します。また、第1回のガイダンス時に基本図書および課題図書文献目録を配布します。		出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。詳細は第1回の授業(ガイダンス)の際に説明します。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ語圏入門Ⅱ ドイツ語圏入門 b	担当者	木村佐千子 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標</p> <p>ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。</p> <p>1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>2) 同じく1学年から履修できる「ドイツ語学概論」「ドイツ文学概論」「ドイツ文化史概論」「ドイツ史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像(いわば見取り図)を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。</p> <p>3) レポートの書きかた: 参考文献と自分の意見の区別のしかた、参考文献の挙げかたや引用方法を学ぶ。</p> <p>講義概要</p> <p>各担当者が、ことばと音楽・文化、文学、思想、美術、映画、政治、経済、民俗行事 etc.といったテーマで、基本的な講義を行います。また、卒業生から留学や就職の話をしきり回も設ける予定です。</p> <p><u>*ドイツ語圏入門ⅠまたはⅡの単位を取得することが、2年次の基礎演習の履修条件です。</u></p>		<p>第1回の授業時に、本学期的講義計画表を配布します。なお、秋学期のみ受講する学生には、第1回の授業で履修上の注意事項等を記したプリントを配布しますので、必ず出席し、コーディネータに申し出てください。(必修授業ですので、第1週から出席をとります。)</p> <p>10月頃のレポートを課します。</p> <p>*連絡事項を教務課のドイツ語学科掲示板にてお知らせすることがありますので、掲示板を定期的に確認してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布します。		出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。	

05年度以降 04年度以前	基礎演習 I 基礎演習 a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次の「ドイツ語圏入門」では、おもにドイツ語圏に関する基礎知識の習得とレポート執筆の技術を身につけることを目標にしていました。2年次の「基礎演習」では、自ら情報を収集し、それを口頭で発表したり、文書（レポート）としてまとめるプレゼンテーションの技術を高めることを目的にしています。</p> <p>春学期では、おもにグループでの共同研究や、討論、ディベートなどを通して、情報検索、口頭発表の作法、討議のしかたなどの基礎を身につけます。</p> <p>3回の「ドイツの都市研究」はグループの必修共通テーマで、残りの2回は、教員と学生の相談の上、ドイツ語圏にまつわるテーマを決定します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 自己紹介（プレゼンテーションの第一歩） ドイツの都市研究の準備 3. グループ研究① ドイツの都市研究 I 4. グループ研究① ドイツの都市研究 II 5. グループ研究① ドイツの都市研究 III 6. グループ研究② テーマ I 7. グループ研究② 8. グループ研究② 9. グループ研究③ テーマ II 10. グループ研究③ 11. グループ研究③ 12. 予備日 13. まとめ 秋学期個人自由研究分担最終決定 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示します		出席（出欠・遅刻）、授業参加（討論などへの参加）、口頭発表、レポートから総合的に判断します。詳しくは、第1回授業時に説明があります。	

05年度以降 04年度以前	基礎演習 II 基礎演習 b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期のうちに決定していた分担にもとづいて、秋学期は個人による自由研究発表を行います。</p> <p>発表はおおよそ20分、質疑応答に10分を予定しています。発表者は、発表の遅くとも2週間前までに担当教員と相談しながら発表内容を絞り込み、自分なりの問題提起ができるように発表をまとめ、ハンドアウトを作成してください。</p> <p>聞き手も漠然と聞くのではなく、発表者と問題意識を共有しながら、質疑応答と議論に積極的参加してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期レポート返却、講評、後期分担の再確認 2. 以下、個人自由研究発表、質疑応答 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示します。		出席（出欠・遅刻）、授業参加（討論などへの参加）、口頭発表、レポートから総合的に判断します。	

05年度以降 04年度以前	総合ドイツ語V 総合ドイツ語IIIa	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員が授業を担当し、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、3年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もドイツ語で書かれており、授業はすべてドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<p><i>Stufen international 2</i> の Lektion 15-17 を学習します。おおむね以下のような進度を予定しています。</p> <p>1-4 週目 Lektion 15 5-8 週目 Lektion 16 9-13 週目 Lektion 17、口頭試験の準備</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Stufen international 2</i> および別冊の練習問題集、単語集、CD (既習クラスは別教材です。)</p>		<p>出席状況、授業中に行う小テスト、および学期末口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Vの単位が取れないと、次の総合ドイツ語VIへ進めません。</p>	

05年度以降 04年度以前	総合ドイツ語VI 総合ドイツ語IIIb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員が授業を担当し、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、3年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<p><i>Stufen international 2</i> の Lektion 18-20 を学習します。おおむね以下のような進度を予定しています。</p> <p>1-4 週目 Lektion 18 5-8 週目 Lektion 19 9-13 週目 Lektion 20、口頭試験の準備</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Stufen international 2</i> および別冊の練習問題集、単語集、CD (既習クラスは別教材です。)</p>		<p>出席状況、授業中に行う小テスト、および学期末口頭試験の結果を総合して評価します。</p>	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（時事） 上級ドイツ語（会話）	担当者	Cl. ハーマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスでは、最近のドイツ短編映画を六本見ます。そして、それぞれのストーリーやキャラクター、人間関係について、パートナー同士、グループ、クラスディスカッションなどで述べたり、話し合ったりします。それぞれの映画に関して、話の要約、批評、作文（たとえば、あるキャラクターへの手紙、あるキャラクターが書いたであろう日記、異なった終わり方を考えてみる、映画の後に起こるであろうこと予想などの作文）を書きます。</p> <p>私が、宿題の間違いに印を付けて、プリントアウトします。次の授業に持って来ますので、学生が授業中、クラスメートと一緒に間違いを直して、訂正した宿題をもう一度私に送ってください。</p>		<p>二週間に一作ずつの短編映画を見ます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウト		授業への参加、ディスカッションへの参加具合、グループでの活動内容についての口頭での発表、要約、批評、作文の結果、宿題の訂正具合。	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（時事） 上級ドイツ語（会話）	担当者	Cl. ハーマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスでは、最近のドイツの短編映画を六つ見ます。そして、それぞれのストーリーやキャラクター、人間関係について、パートナー同士、グループ、クラスディスカッションなどで述べたり、話し合ったりします。それぞれの映画に関して、話の要約、批評、作文（たとえば、あるキャラクターへの手紙、あるキャラクターが書いたであろう日記、異なった終わり方を考えてみる、映画の後に起こるであろうこと予想などの作文）を書きます。</p> <p>私が、宿題の間違いに印を付けて、プリントアウトします。次の授業に持って来ますので、学生が、授業中、クラスメートと一緒に、間違いを直して、直した宿題をもう一度私に送って下さい。</p>		<p>二週間に一作ずつの短編映画を見ます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウト		授業への参加、ディスカッションへの参加具合、グループでの活動内容についての口頭での発表、要約、批評、作文の結果、宿題の訂正具合。	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語 (時事) 上級ドイツ語 (会話)	担当者	Monika Ayugai
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs werden wir über verschiedenerlei Neuigkeiten aus Deutschland (Sport, Kultur, Wirtschaft, Gesellschaft, Politik) Kurzhachrichten hören, Verständnisfragen und neues Vokabular klären und über diese Themen diskutieren, zum Teil im Vergleich zu Japan.</p> <p>Je nach Vorkenntnissen und Interessen der Studenten kann die Themenwahl in der 1. Stunde (Einführung) verändert oder ergänzt werden.</p> <p>Zum besseren Verständnis der einzelnen Themen sehen wir Ausschnitte (Clips) aus Filmen und Videos.</p>		<p>Vorläufige Planung:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung 2. Deutsche Handballer erringen Weltmeisterschaft 3. Deutscher Triumph bei der Oscarverleihung 2007 4. Der beste fremdsprachige Film 5. Film: Das Leben der Anderen 6. Die Idee zu diesem Film 7. Turbulenzen beim Flugzeugbauer Airbus 8. Airbus 9. Rauchverbot: Diskussionsstoff 10. Betreuungsplätze für deutsche Kleinkinder 11. Umweltfragen 12. Zusammenfassung 13. Test und Zusammenfassung 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Neuigkeiten aus Deutschland '07 Andrea Raab >Asahi Verlag Toshiko Ishii</p>		<p>Regelmäßige Teilnahme am Unterricht, kurze Quiz im Laufe des Semesters, kurzer schriftlicher Test am Ende des Semesters</p>	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語 (時事) 上級ドイツ語 (会話)	担当者	Monika Ayugai
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Winter Semester können auch die Studenten beginnen, die nicht am Sommer Semester teilgenommen haben.</p> <p>Auch in diesem Semester werden wir Neuigkeiten aus Deutschland aus unterschiedlichen Bereichen wie Sport, Kultur, Gesellschaft usw. hören, lesen und besprechen.</p> <p>Zusätzlich sollen durch Kurzreferate der Studenten aktuelle Themen aus dem Studentenleben Beachtung finden.</p>		<p>Vorläufige Planung:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung 2. Der deutsche Radsport in der Krise 3. Kyoto Preis für Pina Bausch 4. Pina Bausch und Tanztheater 5. Referat 6. Ein Wirtschaftsskandal 7. Referat 8. Babyboom nach Fußball-WM? 9. Referat 10. G8-Gipfeltreffen in Heiligendamm 11. Die Stadt Berlin 12. Referat und Zusammenfassung 13. Zusammenfassung und Test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Neuigkeiten aus Deutschland '07 Andrea Raab >Asahi Verlag Toshiko Ishii</p>		<p>Regelmäßige Teilnahme am Unterricht, kurze Quiz im Laufe des Semesters, kurzer schriftlicher Test am Ende des Semesters</p>	

05 年度以降 04 年度以前	上級ドイツ語 (会話) ドイツ語Ⅲ (会話)	担当者	Christian W. Spang (Ch. W. シュパング)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>AUSSPRACHE: In diesem Semester werden wir zunächst die Aussprache der deutschen Konsonanten und Vokale wiederholen und üben.</p> <p>KONVERSATION: Danach werden wir verschiedene Dialogübungen machen. Ziel ist es dabei, die mündliche Ausdrucksfähigkeit zu verbessern.</p> <p>THEMEN/REFERATE: Wir werden uns mit Vergangenheit und Gegenwart der deutschen Bundesländer, Österreichs, der Schweiz, Luxemburgs, Lichtensteins etc. beschäftigen.</p> <p>INTERNET: Im ersten und/oder im zweiten Semester möchte ich eine Stunde im Computerraum abhalten, um praktische Hinweise geben zu können, wie man das Internet zur Verbesserung der eigenen Fähigkeiten verwenden kann. Besonders erwähnenswert sind hierbei deutsch-japanische Lexika, die deutsche Ausgabe der Wikipedia sowie deutschsprachige (Nachrichten-) Sendungen etc.</p>		<p>Die erste Stunde dient dem gegenseitigen kennen lernen und der Besprechung des Kurses.</p> <p>Dann wenden wir uns folgenden Aufgabenstellungen zu:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Ausspracheübungen: z.B. <i>Zungenbrecher (早口)</i> • Brainstorming: <i>Wortschatzarbeit etc.</i> • Partnerübungen: <ol style="list-style-type: none"> a) <i>Sie schreiben selbst Dialoge zu bestimmten Themen und stellen diese im Unterricht vor.</i> b) <i>Vorgegebene Themen werden im A ⇔ B Schema behandelt, d.h. zwei Student(inn)en bekommen unterschiedliche Informationen und müssen das fehlende Wissen von ihrem Partner bzw. ihrer Partnerin erfragen.</i> <p>REFERATE: In der zweiten Hälfte des Semesters MUSS JEDE STUDENTIN und JEDER STUDENT einen kleinen Vortrag über eines der deutschen Bundesländer etc. halten. Hierbei verlange ich:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.) ein Handout (Din A4) 2.) die Verwendung von a) Overhead Projektor (OHP) oder b) Powerpoint <p>Den Abschluss des Kurses bildet ein mündlicher Test, der in etwa der entsprechenden „Sōgō Doitsugo“-Prüfung am Ende jedes Semesters entspricht.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die nötigen Unterlagen werden im Unterricht verteilt.		<ol style="list-style-type: none"> 1.) Anwesenheit (出席) 2.) Kurzreferate (発表) 3.) mündliche Prüfung (口頭試験) 	

05 年度以降 04 年度以前	上級ドイツ語 (会話) ドイツ語Ⅲ (会話)	担当者	Christian W. Spang (Ch. W. シュパング)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Unterricht wird im Herbst/Winter weitgehend dem Muster des ersten Semesters entsprechen.</p> <p>THEMEN /REFERATE: In diesem Semester wählen die Student(inn)en selber ein Thema, über das er/sie gerne sprechen möchte!</p>		<p>Die erste Stunde dient erneut dem gegenseitigen kennen lernen und der Besprechung des Kurses. In den folgenden Unterrichtseinheiten werden wir verschiedene Dialogübungen machen.</p> <p>REFERAT: Anschließend MUSS erneut JEDE(R) TEILNEHMER bzw. TEILNEHMERIN einen kleinen Vortrag über ein selbst gewähltes Thema halten.</p> <p>Wie im ersten Semester verlange ich ein Handout (Din A4) sowie die Verwendung von a) Overhead Projektor (OHP) oder b) Powerpoint.</p> <p>Den Abschluss des Kurses bildet ein mündlicher Test, der der üblichen mündlichen Sōgō-Prüfung entspricht.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die nötigen Unterlagen werden im Unterricht verteilt.		<ol style="list-style-type: none"> 1.) Anwesenheit (出席) 2.) Kurzreferate (発表) 3.) mündliche Prüfung (口頭試験) 	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Nach anfänglicher Wiederholung und fundamentalen Sprechübungen wollen wir verschiedene aktuelle Themen besprechen, in nicht zu schwierigem Deutsch. Die Themenauswahl richtet sich nach dem Niveau und Interesse der Teilnehmer, ein Lehrbuch werden wir aber dennoch benutzen.</p> <p>Wir beginnen einfach...</p> <p>Regelmäßige Teilnahme ist aber nötig!</p> <p>現代的なテーマをドイツ語で学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einfuehrung 2. Wiederholungen 3. Lektion 1 und 2 4. Lektion 3 5. Lektion 4 6. Lektion 5 7. Lektion 6 8. Kurztest: Grammatik, Hoeren 9. Lektion 7 10. Lektion 8 11. Lektion 9 12. Lektion 10 13. Sommertest(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「Lernziel Deutsch」(Hieber), Sanshusha 「文法から学べるドイツ語ドリル」ナツメ社 ISBN 978-4-8163-4422-0		Aktive Mitarbeit, Anwesenheit, Testergebnisse	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
Wie im Sommersemester, mit Fortsetzung des Buches und Zusatzmaterialien, evt. Referate		<ol style="list-style-type: none"> 1. Wiederholungen 2. Lektion 11 3. Lektion 12 4. Lektion 13 5. Lektion 14, BRD und EU 6. Kurztest: Wiederholungen 7. Lektion 15 8. Lektion 16 9. Lektion 17 10. Lektion 18 11. Lektion 19 12. Lektion 20 13. Abschlusstest 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「Lernziel Deutsch」(Hieber), Sanshusha 「文法から学べるドイツ語ドリル」ナツメ社 ISBN 978-4-8163-4422-0		Aktive Mitarbeit, Anwesenheit, Testergebnisse und/oder Referate	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	Johann Streit ヨハン・シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs werden die StudentInnen gebeten, kurze Referate vorzubereiten, deren Themen sie selbst auswählen. Besonders wichtig ist dabei das klare und deutliche Sprechen vor der Gruppe, aber auch das aktive Zuhören.</p> <p>In der ersten Phase üben wir deshalb noch einmal ganz besonders das Fragenstellen, um den Austausch von Informationen zu fördern.</p> <p>Lediglich als Rahmen mögen dabei die Europäischen Fußballmeisterschaften 2008 in der Schweiz und in Österreich dienen. Es besteht also die Möglichkeit, über eine Stadt, in der ein Spiel stattfindet, zu sprechen; oder über eine berühmte Person, die aus dieser Stadt stammt. Man kann aber auch über ein Fußballspiel berichten, oder zu zweit ein Interview mit einem Sportler oder Fan produzieren.</p>		<p>1. Auswahl der Themen für das Sommersemester 2. – 13. Referate und Diskussionen</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布します。		<p>1. Anwesenheit (出席) 2. Referate (発表) 3. Aktive Mitarbeit (積極的授業参加)</p>	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	Johann Streit ヨハン・シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs werden die StudentInnen gebeten, kurze Referate vorzubereiten, deren Themen sie selbst auswählen. Besonders wichtig ist dabei das klare und deutliche Sprechen vor der Gruppe, aber auch das aktive Zuhören.</p> <p>Zum Themenkreis gehören Erfahrungsberichte über die Sommerferien, vor allem interkulturelle, aber auch allgemeine Probleme des Zusammenlebens in einer multikulturellen Gesellschaft.</p> <p>Geübt wird die Meinungsäußerung in der Diskussion.</p>		<p>1. Auswahl der Themen für das Wintersemester 2. – 13. Referate und Diskussionen</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布します。		<p>1. Anwesenheit (出席) 2. Referate (発表) 3. Aktive Mitarbeit (積極的授業参加)</p>	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Sommersemester 2008</p> <p>In diesem Kurs sollen anhand vorgegebener Bilder und Wortschatz eine Geschichte erarbeitet und erzählt werden. Dazu werden außerdem dem Gesprächspartner/in (vorgegebene) Fragen zu den einzelnen Bildern gestellt, die dann beantwortet werden sollen.</p> <p>Als Hausaufgabe sollen die Geschichten schriftlich fixiert werden.</p> <p>Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.</p>		<p>1)-13) Mit Hilfe von Bildern wird eine Geschichte erarbeitet.</p> <p>12)Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Fotokopien		Test	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wintersemester 2008</p> <p>Aus dem Buch „Neuigkeiten aus Deutschland 07“ werden Texte genommen, die von den Studenten vorher zu Hause gelesen wurden. Im Unterricht werden zu dem Text Fragen erarbeitet und gegenseitig gestellt. Anschließend soll die Meinung über das Thema geäußert werden.</p> <p>Hier ist es wichtig, dass die Studenten zu Hause Vorarbeit (Text lesen) leisten.</p> <p>Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.</p>		<p>1) Vorstellung, was man im Kurs machen soll. Mit Beispiel.</p> <p>2) Thema Sport : Deutsche Handballweltmeisterschaft</p> <p>3) Deutscher Radsport in der Krise</p> <p>4) Thema: Oscaverleihung2007</p> <p>5) Kyoto-Preis für Pina Bausch</p> <p>6) Thema Wirtschaft: Airbus</p> <p>7) Siemens</p> <p>8) Thema Gesellschaft: Rauchverbot</p> <p>9) Babyboom nach Fußball WM</p> <p>10) Thema Politik: Betreuungsplätze für deutsche Kleinkinder</p> <p>11) G8 Gipfeltreffen in Heiligendamm</p> <p>12) Test</p> <p>13) DVD sehen</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Fotokopien		Test	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	ケルバー＝阿部 スヴェン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Studenten im 3. und 4. Studienjahr üben in diesem Kurs, wie man in verschiedenen Situationen Gespräche auf Deutsch führen kann.</p> <p>Dabei wird auch ein bisschen Grammatik und Wortschatz wiederholt und ausgebaut.</p> <p>Wenn von den Studenten gewünscht, können in einigen Stunden auch Übungen für den mündlichen Teil der ZD (oder ähnliche Prüfungen) gemacht werden.</p>		<p>Kommunikation in verschiedenen Situationen ist das Thema. Dafür machen wir im Unterricht z.B. Rollenspiele, Üben mit Filmausschnitten und so weiter.</p> <p>Das ganze sollte möglichst lehrreich sein, aber vor allem auch Spass machen.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben und ein (kleiner) Test am Semesterende.	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	ケルバー＝阿部 スヴェン
講義目的、講義概要		授業計画	
Fortsetzung des Sommersemesters.		Fortsetzung des Sommersemesters.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben und ein (kleiner) Test am Semesterende.	

03年度以降	上級ドイツ語（作文）	担当者	ケルバー＝阿部 スヴェン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Studenten im 3. und 4. Studienjahr lernen in diesem Kurs, verschiedene Textsorten selbstständig auf Deutsch zu schreiben. Dabei wird auch ein bisschen Grammatik und Wortschatz wiederholt und ausgebaut.</p> <p>Wenn von den Studenten gewünscht, können in einigen Stunden auch Übungen für den schriftlichen Teil der ZD (oder ähnliche Prüfungen) gemacht werden.</p>		<p>Anfangs beginnen wir mit einfachen Texten wie z.B. Postkarten oder Personenbeschreibungen. Im Laufe des Semesters gehen wir dann an schwierigere Texte wie z.B. Berichte, Filmbeschreibungen und der gleichen mehr.</p> <p>Der Unterricht wird also ein "Survival-Training" für schriftliches Deutsch.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben und ein (kleiner) Test am Semesterende.	

03年度以降	上級ドイツ語（作文）	担当者	ケルバー＝阿部 スヴェン
講義目的、講義概要		授業計画	
Fortsetzung des Sommersemesters.		Fortsetzung des Sommersemesters.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben und ein (kleiner) Test am Semesterende.	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	D.フルンケース
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Kreatives Schreiben in Gruppen- und Einzelarbeit ist Ziel dieses Seminars. Konkrete Übungen und Schreibtechniken sollen im Unterricht erarbeitet werden, damit Strukturieren und Formulieren leichter fallen.</p> <p>Anwesenheit, aktive Mitarbeit und Hausaufgaben sind Grundlage der Leistungsbewertung.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Woche: Sich vorstellen 2. Woche: Sich, Familie und Freunde vorstellen 3. Woche: Eine fiktive Person vorstellen 4. Woche: Korrektur 5. Woche: a) Was wäre wenn 6. Woche: b) Was wäre wenn... 7. Woche: Korrektur 8. Woche: Ein Elfchen 9. Woche: Von der Bildergeschichte zum Text 10. Woche: Eine spannende Geschichte 11. Woche: Korrektur 12. Woche: a) Erlebnisbericht 13. Woche: b) Erlebnisbericht 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Fotokopien werden gestellt.		Anwesenheit, aktive Mitarbeit und Hausaufgaben sind Grundlage der Leistungsbewertung.	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	D.フルンケース
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Kreatives Schreiben in Gruppen- und Einzelarbeit ist Ziel dieses Seminars. Konkrete Übungen und Schreibtechniken sollen im Unterricht erarbeitet werden, damit Strukturieren und Formulieren leichter fallen.</p> <p>Anwesenheit, aktive Mitarbeit und Hausaufgaben sind Grundlage der Leistungsbewertung.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Woche: a) Brief/E-Mail schreiben 2. Woche: b) Brief/E-Mail schreiben 3. Woche: Korrektur 4. Woche: Zeitungsnachricht 5. Woche: Zeitungsnachricht umschreiben 6. Woche: Korrektur 7. Woche: a) Textgliederungen 8. Woche: b) Textgliederungen 9. Woche: Korrektur 10. Woche: Märchen in Zeitungsnachricht umwandeln 11. Woche: Märchen in Zeitungsnachricht umwandeln 12. Woche: Korrektur 13. Wochen: Freies Schreiben 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Fotokopien werden gestellt.		Anwesenheit, aktive Mitarbeit und Hausaufgaben sind Grundlage der Leistungsbewertung.	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	Thomas Karrer
講義目的、講義概要		授業計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・正しい文法の使い方 ・動詞の使い分け（Z.B. kennen, wissen） ・語順・否定詞の位置 ・手紙・葉書の書き方 		初回の人数により決定する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		期末テスト・出席・積極的に授業に参加すること	

05年度以降 04年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	Thomas Karrer
講義目的、講義概要		授業計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・正しい文法の使い方 ・動詞の使い分け（Z.B. kennen, wissen） ・語順・否定詞の位置 ・手紙・葉書の書き方 		初回の人数により決定する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		期末テスト・出席・積極的に授業に参加すること	

03年度以降	中世ドイツ語 I	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel dieses Unterrichts ist es, an Textbeispielen vom 12. Jahrhundert bis zum Frühneuhochdeutschen einen Überblick über die Entwicklung der deutschen Sprache und Literatur zu vermitteln.</p> <p>Alte Texte im Original zu lesen ist reizvoll und durchaus nicht so schwierig. Wir werden auch historische und kulturgeschichtliche Hintergrundinformationen zu den Texten suchen und gegebenenfalls Ausschnitte aus Verfilmungen der Texte ansehen.</p>		<p>Die Festlegung der Texte und die Schwerpunktsetzung bei den Themen erfolgt nach Rücksprache mit den Teilnehmern unter Berücksichtigung individueller Interessen und Bedürfnisse. Zur Auswahl stehen unter vielen anderen Möglichkeiten das Nibelungenlied, Tristan und Isolde, Parzival, Meier Helmbrecht, Gedichte von Walther von der Vogelweide, Tischzuchten, Tierbeschreibungen, Reiseberichte.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien, werden in der ersten Stunde verteilt.		Regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit. Wiederholungsaufgaben am Ende des Semesters (kein Test)	

03年度以降	中世ドイツ語 II	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Siehe oben		Siehe oben	
テキスト、参考文献		評価方法	
Siehe oben		Siehe oben	

03年度以降	通訳特殊演習 I	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>★定員 20 名。第 1 回授業で選抜試験を実施するので、必ず参加すること。</p> <p>★おおよそ、Zertifikat Deutsch, 「独検」2 級, TestDaF のレベル 3 程度かそれ以上のドイツ語能力を前提とする。</p> <p>通訳という実践的な場面を想定しながら、基礎トレーニングの方法を学び、実際の場面を想定しながら、ドイツ語能力全体の向上を目指す。</p>		<p>第 1 回授業で指示する。</p> <p>基本的な練習として：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャドウイング（「影」のようになぞる練習） ・エコー・トレーニング（「こだま」のように反復する練習） ・クイック・レスポンス（短文、句の日独・独日翻訳） ・早口言葉 <p>などを取り入れて、基礎能力向上を目指す。</p> <p>さらに、先輩が学生時代に通訳として実際に活躍した（現在もしている）「日独スポーツ同時交流」などでのアテンド通訳の基本的なシーン、あいさつなどのテキストをもとに実践的な練習をする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に適宜指示する。		授業時の小テスト、学期末などのレポートをもとに評価する。欠席・遅刻が多い場合には評価の対象としない。	

03年度以降	通訳特殊演習 II	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>★定員 20 名。「通訳特殊演習 I」の履修が前提となる。</p> <p>★おおよそ、Zertifikat Deutsch, 「独検」2 級, TestDaF のレベル 3 程度かそれ以上のドイツ語能力を前提とする。</p> <p>通訳という実践的な場面を想定しながら、基礎トレーニングの方法を学び、実際の場面を想定しながら、ドイツ語能力全体の向上を目指す。</p>		<p>第 1 回授業で指示する。基本的には「基礎練習」と「基本的シーンの練習」の 2 部構成とする。</p> <p>春学期同様の基本的な練習のほか、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bildbeschreibung ・Textinterpretation <p>など、言語技術向上を目指す練習も取り入れる。</p> <p>秋学期には、ドイツ首相などのあいさつ、獨協でのドイツ大使のあいさつなどを取り入れて、よりレベルの高い通訳の練習をする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に適宜指示する。		授業時の小テスト、学期末などのレポートをもとに評価する。欠席・遅刻が多い場合には評価の対象としない。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ語学概論Ⅰ ドイツ語学概論 a	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ほとんどのみなさんは、すでに英語という外国語を学習してきています。しかし、コミュニケーションの手段としての言語には様々な側面があります。言語が辿ってきた変化の歴史や言語の使用されている状況、社会、地域などの多種多様な要因を知らなければ、本当の意味でドイツ語が学ぶことにはなりません。本年度の「ドイツ語学概論」では、ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標としたいと思います。</p> <p>講義科目ではありますが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方向的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を探ってみたいと思います。春学期では、言語についての一般的な問題を取り上げます。言語学概論とだぶる部分も出てくるとは思いますが、できるだけドイツ語との比較も含めて進めていきたいと思っています。講義科目だから聞いてさえいればいいという態度の学生ではなく、自分の考えや意見の持ち、それを人に伝えられる学生を希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ことばの不思議-導入と年間計画 2. ことばの不思議 (1) 3. ことばの不思議 (2) 4. ことばの不思議 (2) 5. ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (1) 6. ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (2) 7. それってドイツ語-ドイツ語の方言 8. 文法のお話 (1)-品詞ってなに 9. 文法のお話 (2)-木を見て森を見ず 10. 文法のお話 (3)-パンドラの箱 11. 辞書は大きなおもちゃ箱 12. 言語というブラックホール 13. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
カール＝ディーター・ビュンティング著 千石／川島他訳 『言語学入門』(白水社) その他は適時講義で指示		試験あるいはレポートと授業中に課題。講義への参加度。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ語学概論Ⅱ ドイツ語学概論 b	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ほとんどのみなさんは、すでに英語という外国語を学習してきています。しかし、コミュニケーションの手段としての言語には様々な側面があります。言語が辿ってきた変化の歴史や言語の使用されている状況、社会、地域などの多種多様な要因を知らなければ、本当の意味でドイツ語が学ぶことにはなりません。本年度の「ドイツ語学概論」では、ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標としたいと思います。</p> <p>講義科目ではありますが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方向的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を探ってみたいと思います。秋学期には範囲の比重をドイツ語に移して、言語の問題を様々な側面から扱うことによって深めていきたいと考えています。講義科目だから聞いてさえいればいいという態度の学生ではなく、自分の考えや意見の持ち、それを人に伝えられる学生を希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語は怪人二十面相 2. 言語学の歴史 3. 音の世界-音声学・音韻論 4. 形にこだわって-形態論 5. 意味って何 (1)-意味論 6. 意味って何 (2)-意味論 7. 言語は生き物 (1)-実用論 8. 言語は生き物 (2)-実用論 9. 言語と社会-社会言語学 10. 言語と心-言語心理学あるいは認知 11. 言語研究への道 12. まとめ 13. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
カール＝ディーター・ビュンティング著 千石／川島他訳 『言語学入門』(白水社) その他は適時講義で指示		試験あるいはレポートと授業中に課題。講義への参加度。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ文学概論 I ドイツ文学概論 a	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>1)ドイツ語で書かれた文学で代表的なものを取り上げ読んでみる。翻訳のあるものを紹介するので、できるだけ多くの文学テクストを読んでほしい。</p> <p>2)文学を通してその背景にあるドイツ語圏の歴史的社会的背景も探る。文学を、専門領域に限定せずに様々な学問領域を横断して論じる。</p> <p>3)ドイツ語圏というヨーロッパの一地域にある文学を学ぶことを通して、文学に代表される「書く」という行為の普遍性を考えてみる。書き手として作家とはどんな存在なのかを理解する。</p> <p>講義概要</p> <p>春学期はドイツ語圏文学の通史として中世から 19 世紀までの文学の概略を紹介する。その際ゲーテを中心に据える。その際、必ずゲーテの『若きウェルテルの悩み』は読むことになる。堅苦しい話だけでは学生の関心が続かないので、視聴覚教材を用いる。文学を音楽にしたもの、映像化したものを原作との関係から論じていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 「作家」とはなにか? 2. 中世からルネッサンス・宗教改革まで(1) 3. 中世からルネッサンス・宗教改革まで(2) 4. バロックから啓蒙主義(1) 5. バロックと啓蒙主義(2) 6. シュトルム・ウント・ドランクとゲーテ 7. 『ウェルテル』について(1) 8. 『ウェルテル』について(2) 9. 古典主義 10. 初期ロマン主義と後期ゲーテについて 11. 後期ロマン主義・ナショナリズムと文学 12. まとめ 13. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：教科書は特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。『ウェルテル』はレポート課題図書なので入手することになる。</p> <p>参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		<p>出欠はとる。講義で扱ったテーマに関するレポートを学期中に課す。期末試験もやる。以上の要素から総合評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

05年度以降 04年度以前	ドイツ文学概論 II ドイツ文学概論 b	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>1)ドイツ語で書かれた文学で代表的なものを取り上げ読んでみる。翻訳のあるものを紹介するので、できるだけ多くの文学テクストを読んでほしい。</p> <p>2)文学を通してその背景にあるドイツ語圏の歴史的社会的背景も探る。文学を、専門領域に限定せずに様々な学問領域を横断して論じる。</p> <p>3)ドイツ語圏というヨーロッパの一地域にある文学を学ぶことを通して、文学に代表される「書く」という行為の普遍性を考えてみる。書き手として作家とはどんな存在なのかを理解する。</p> <p>講義概要</p> <p>秋学期はドイツ語圏文学の通史として 19 世紀頃から現代までの文学の概略を紹介する。その際ゲーテが、ある時代の終わりとして、この講義の始まりに置かれる。秋学期の講義は「文学」および「作家」の終焉をテーマにする。その際、必ずカフカの短編（『変身』）は読むことになる。「文学の終焉」という堅苦しいテーマだけでは学生の関心が続かないので、視聴覚教材を用いる。文学を音楽にしたもの、映像化したものを原作との関係、および現代社会における原作および作家性の消失から論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 「ある種の文学の終焉」について 2. 革命と文学 3. (詩的)リアリズム 4. 19 世紀末/表現主義第一次大戦/ダダイズム 5. ヴァイマル共和国時代(1) 6. ヴァイマル共和国時代(2) 7. ナチスの台頭と亡命文学(1) 8. ナチスの台頭と亡命文学(2) 9. 第二次大戦後の文学/冷戦下の文学(1) 10. 第二次大戦後の文学/冷戦下の文学(2) 11. 現在の文学の諸相 12. まとめ 13. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：教科書は特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。『変身』はレポート課題図書なので入手することになる。</p> <p>参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		<p>出欠はとる。講義で扱ったテーマに関するレポートを学期中に課す。期末試験もやる。以上の要素から総合評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

05年度以降 04年度以前	ドイツ語学各論 I ドイツ語学各論 a	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語日常表現と文型練習がこの授業でのテーマです。英語では構文については例えば S+V+O とか S+V+O+C などのように文型について詳しく説明されますが、ドイツ語では何故か文型はあまり言及されません。ドイツ語では動詞の位置の特異性について話が集中して、それ以外の語句の語順・自動詞や他動詞の使い方などにはあまり触れられないのではないのでしょうか。この授業ではサンプルとなるドイツ語文を参考に文を自由に作りながら、文型について練習しましょう。</p> <p>サンプルとする文は、とても日常的で、語句も構文も簡単です。基礎単語 1000 語程度の知識があれば足りるでしょう。練習は簡単すぎると思われるかもしれませんが、でも、日常的な表現をしっかり身につければ、それで十分ではないのでしょうか。簡単な単語と簡単な構文で自由にある程度の自己表現が出来るようになれば、目標は達成されたと言ってよいと思います。予習は必要ありません。授業時間内にしっかりと、楽しく勉強して下さい。そしてドイツ語を身近な言葉として感じるようになってくれれば、嬉しく思います。</p>		<p>毎時間ドイツ語文のサンプルをコピーして配ります。そこに含まれる語句・表現を一つ一つ身につけていきましょう。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料をコピーします。		毎時間前回の授業で勉強した内容について小テストを実施します。このテストの総計を成績とします。定期試験は行いません。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ語学各論 II ドイツ語学各論 b	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語日常表現と文型練習がこの授業でのテーマです。英語では構文については例えば S+V+O とか S+V+O+C などのように文型について詳しく説明されますが、ドイツ語では何故か文型はあまり言及されません。ドイツ語では動詞の位置の特異性について話が集中して、それ以外の語句の語順・自動詞や他動詞の使い方などにはあまり触れられないのではないのでしょうか。この授業ではサンプルとなるドイツ語文を参考に文を自由に作りながら、文型について練習しましょう。</p> <p>サンプルとする文は、とても日常的で、語句も構文も簡単です。基礎単語 1000 語程度の知識があれば足りるでしょう。練習は簡単すぎると思われるかもしれませんが、でも、日常的な表現をしっかり身につければ、それで十分ではないのでしょうか。簡単な単語と簡単な構文で自由にある程度の自己表現が出来るようになれば、目標は達成されたと言ってよいと思います。予習は必要ありません。授業時間内にしっかりと、楽しく勉強して下さい。そしてドイツ語を身近な言葉として感じるようになってくれれば、嬉しく思います。</p>		<p>毎時間ドイツ語文のサンプルをコピーして配ります。そこに含まれる語句・表現を一つ一つ身につけていきましょう。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料をコピーします。		毎時間前回の授業で勉強した内容について小テストを実施します。このテストの総計を成績とします。定期試験は行いません。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ文学各論 I ドイツ文学各論 a	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>19世紀から20世紀にかけてのいわゆる世紀転換期に欧米全土を風靡したアール・ヌーヴォー、この名を知らぬ人は少ないと思いますが、これは主として応用芸術における新芸術運動であったので、美術史的にはマイナー視されてきました。しかし、近年その再評価の動きは著しく、ドイツではもっぱら Jugendstil (青春様式) と呼ばれ、市民生活をも巻き込んだ総合芸術運動へと発展したこの様式は、精神史の一時期を画する潮流としてすでに定評を得ています。本講では欧米各国の多くの作品を鑑賞しながら、その特質を理解するとともに、文学におけるその表われ方を探りたいと思います。</p>		<p>毎回スライドで作品を鑑賞しながら、解説をしていきます。前半は絵画、工芸、建築、書籍、舞踊などの分野からアプローチして全体像を把握してから、後半は文学作品を取り上げる予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてその都度プリントを配布します。		原則としてレポート提出に平常点（毎時間の出欠など）を加味して総合的に評価します。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ文学各論 II ドイツ文学各論 b	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一応春学期に準ずる予定ですが、進み具合によっては変更もあり得ることを承知しておいてください。その場合は然るべき時点でガイダンス致します。</p>		<p>左記に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じる。		春学期に準じる。	

03年度以降	ドイツ語講読（語学）	担当者	A. リプスキ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ (über aktuelle Entwicklungstendenzen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen...).</p> <p>Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Artikel aus Lexika...</p> <p>Zu jedem Text gibt es verschiedene Aufgaben, die die Kursteilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereiten und die danach zusammen im Unterricht besprochen werden :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes 		<p>1. – 6. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten</p> <p>7. Stunde: Test zu den besprochenen Texten</p> <p>8.- 12. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten</p> <p>13. Stunde: Test zu den besprochenen Texten</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する。		2 schriftliche Tests	

03年度以降	ドイツ語講読（語学）	担当者	A. リプスキ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ (über aktuelle Entwicklungstendenzen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen...).</p> <p>Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Artikel aus Lexika...</p> <p>Zu jedem Text gibt es verschiedene Aufgaben, die die Kursteilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereiten und die danach zusammen im Unterricht besprochen werden:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes 		<p>1. – 6. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten</p> <p>7. Stunde: Test zu den besprochenen Texten</p> <p>8.- 12. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten</p> <p>13. Stunde: Test zu den besprochenen Texten</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する。		2 schriftliche Tests	

03年度以降	ドイツ語講読（語学）	担当者	山口 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>当講座の目的は、以下のとおりです。</p> <p>1) 基礎的な「読解技術」の習得。主に現代語で書かれた比較的まとまったテキストを精読することで、重要な熟語表現や文法事項の確認をします。</p> <p>2) 基礎的な語彙力の定着。テキストに登場する表現を用いた反復練習により、基本的な語彙力の定着をはかります。</p> <p>3) 文法的知識の定着。主に初級文法後半の文法事項の復習を行い、学習内容の定着を目指します。</p>		<p>詳細は授業第1回目に指示しますので、必ず出席してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>使用教科書は、第1回授業時に指示します。</p> <p>参考文献は特にありませんが、毎回必ず辞書を持参してください。</p>		<p>授業内試験60パーセント、授業中の課題達成度20パーセント、出席点20パーセントで評価します。定期試験は行いません。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（語学）	担当者	山口 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期を参照のこと。</p>		<p>詳細は授業第1回目に指示しますので、必ず出席してください。（使用教科書後半を使用予定）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同一教材を使用します。</p>		<p>春学期と同じ。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（語学）	担当者	諏訪 功
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スイスの著名な英語学者 Ernst Leisi の講演：Die Darstellung der Zeit in der Sprache（「言語における時間の表現」）を精読し、ドイツ語で書かれた論文の読解力を養うとともに、言語学の基本概念を学ぶ。論文は僅々24ページ足らずのものではあるが、ソシュールはじめ、引用されている言語学の論文、文学、哲学、美学の諸作品、論文などを精査して行くと、内容は果てしなくふくれあがる。</p> <p>受講者にはテキストのじゅうぶんな予習、復習のほか、関連事項の能動的な調査と発表を求める。またテキストの音読の訓練も行う。</p> <p>テキストは模範的なドイツ語で書かれているから、いわゆる論文調の文体に慣れるいい機会であると思う。</p> <p>ドイツ語文献の精読が中心となるので、それ相応の実力と意欲を持つ少数の受講者（最大限 35 名前後）のみを受け入れたい。受講希望者がこの数を超える場合は、何らかの選考を行う可能性もある。</p>		<p>毎時間、受講者数名をアトランダムに選び、テキストの解釈をやってもらう。「調べてきませんでした」、「やってありません」等々の言い訳は許さない。さらに受講者は、関連事項に関する発表を求められることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 『言葉と時間』（白水社）</p> <p>参考文献 ソシュール 『一般言語学講義』（岩波書店）</p>		<p>期末定期試験の結果と平常授業に対する貢献度を、ともに評価対象とする。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（語学）	担当者	諏訪 功
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		春学期と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	伊藤 小弓
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Günter Grass が1959年に発表した長編小説、„Die Blechtrommel“を扱う。 戦後のドイツ文学において重要な作品の一つといえる。舞台は20世紀初頭のダンツィヒで、愚かしい大人の世界を自ら拒否して3歳で成長を止めてしまったオスカールという男の子の話。3歳の誕生日にもらったブリキの太鼓を叩いて、特殊能力であるガラスを破壊してしまう奇声をあげては大人を混乱に陥れる。背景ではナチスの台頭とともに忍び寄る戦争の動乱の時代が見事に描かれている。 長編であるゆえ、授業では全てを読むことはできないので、作品を部分に分けてストーリーを追っていくことにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Günter Grass の人と作品について。 最初の章„Der weite Rock“から読む。 2. 順次、読み進めていく。 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. ↓ 13. テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Günter Grass: <i>Die Blechtrommel</i> (1959)		出席、授業への参加度、学期末の試験	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	伊藤 小弓
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の続きから順次、読み進めていく。 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. ↓ 13. テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Günter Grass: <i>Die Blechtrommel</i> (1959)		出席、授業への参加度、学期末の試験	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツの傑作古典喜劇の一つであるクライストの『アンフィトリュオン』(1807)を読んでみよう。アンフィトリュオンは古代ギリシャの将軍であるが、彼が戦争に出掛けている間に妻アルクメネのもとに夫に変装した神が忍び込んできて妻を不倫へと誘惑する。そしてこの神と妻の間に生まれた子があの英雄ヘラクレスである。</p> <p>この喜劇素材の起源は、ギリシャ神話にさかのぼるが、これを古代ローマのプラウトゥス以降、17世紀フランスのモリエールら多くの作家たちが改作を心がけ、今日ではこの素材を扱った作品の数は50編以上にのぼる。</p> <p>クライストの喜劇(Lustspiel)の場合は、モリエールを手本としながらも、妻アルクメネを中軸にした点がユニークである。そして、夫と夫に変身した神の二人から真の夫を選ぶという苛酷な認識ゲームが彼女に強いられる。ここでは近代における人間のアイデンティティの危機もテーマ化される。この作品ははたして喜劇なのか。悲劇と喜劇は実は紙一重ではないのか。この授業時間ではこうした問題を含めて考察の対象にする。</p> <p>ちなみにクライストは文豪ゲーテに激しい敵意を抱いていた。できればこうした点にも触れてみたい。</p>		<p>劇作品であるため、詩や小説などとは表現方法が異なる。台詞やト書きが中心となり、また舞台上演が前提となる。したがってできるだけテキストの視覚的理解を心がけ、必要に応じてビデオ機器も使用しながら、その背後にひそむ諸問題について、受講者全員で考えていく。むろんドイツ語で書かれたテキストを扱うため、ドイツ語を読む訓練が目的とされるが、なによりもそのドイツ語に含まれる問題の源泉を理解してもらいたい。生きた会話のやり取りが基本であるため、読んでも楽しいはずだ。多面的な授業にしたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Heinrich von Kleist:Amphitryon のテキストはコピーして配布するが、インターネット”Yahoo Deutschland”からもプリントアウトできる。参考文献は講義中に指示する。</p>		<p>普段の授業中の発表と期末のテストにより総合的評価をする。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ただし、受講者との相談の上、場合によって春学期と異なるテキストを選ぶこともある。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文字に書かれていることを正確に読み取る力をつけることが第一の目的です。</p> <p>取り上げるのは未完の大作『特性のない男』で知られる現代オーストリアの作家ローベルト・ムージル(1880-1942)。彼は「いま存命中の作家で後世に名を残すと思われる人は、彼をおいてほかにない」（トーマス・マン）とまで注目されながら不遇の生涯を送った人ですが、こんにちでは意識の流れの文学に連なる、J.ジョイス、M.プルーストらとならぶ今世紀最大の作家の一人と目されています。</p> <p>文章は必ずしも平易とはいえませんが、explicit に述べられていることのなかにある implicit な意味を把握することにもつとめたいと思います。</p>		<p>Robert Musil: <i>Drei Frauen</i>（三人の女）</p> <p>なかには <i>グリギア Grigia</i>、ポルトガルの女 <i>Die Portugiesin</i>、トンカ <i>Tonka</i> という女性たちの三者三様の愛をえがいた短篇三作があります。授業ではこれを順次読み進めますが、毎回訳者を指名して発表してもらいます。分量も少なくはないので、スムーズに進行するよう綿密な予習を期待します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
とりあえずプリントを用意します。		期末試験の結果に平常点（授業での出欠、発表の仕方など）を加味して評価します。	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。		春学期に準じる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じる。		春学期に準じる。	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Alewyn と共に、Detektivroman というジャンルについて考察します。優れた小説は、推理小説と共通点が多いとも言います。大量に生産され、大量に消費される小説群。その起源を訊ねる彼の論は、Romantik に立入り、示唆に富みます。</p> <p>講読の時間ですから、読解力の涵養・向上を目指すのは勿論です。</p> <p>テキストは旧正書法に準拠しています。全 30 ページ。各時間 2 ページ半をめどに読み進めます。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2.～13. テキストを読み進める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
アレヴィン：『推理小説の起源』郁文堂、1990年		期末定期試験70%、通常授業における発表や貢献度を30%とし評価します。	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期で論及される Romantik の中から、Johann Ludwig Tieck (1773 - 1853) を読みます。</p> <p>講読の時間ですから、読解力の涵養・向上を目指すのは言を俟ちません。</p> <p>オリジナル・テキストのため、旧正書法です。全 30 ページ。各時間 2 ページ半を目標にします。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2.～13. テキストを読み進める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
J. L.Tieck: "Der blonde Eckbert" (コピーを配布します。)		期末定期試験70%、通常授業における発表や貢献度を30%とし評価します。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ文化史概論 I ドイツ文化史概論 a	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 これからドイツ（語圏）の文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、文化史上の基本概念や、重要な歴史的・文化的事象について情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、文化史に「ドイツ」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p>講義概要 ドイツ（語圏）の文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ（語圏）の文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 ドイツ文化のルーツと特質 3 中世のドイツ文化 4 同上 5 ルネサンス・宗教改革期のドイツ文化 6 同上 7 三十年戦争・バロック期のドイツ文化 8 同上 9 啓蒙主義時代のドイツ文化 10 同上 11 ロマン主義時代のドイツ文化 12 同上 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		<p>講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

05年度以降 04年度以前	ドイツ文化史概論 II ドイツ文化史概論 b	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 これからドイツ（語圏）の文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、文化史上の基本概念や、重要な歴史的・文化的事象について情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、文化史に「ドイツ」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p>講義概要 ドイツ（語圏）の文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ（語圏）の文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 グリムのメルヒェン 3 19世紀後半のドイツ文化 4 世紀転換期のドイツ文化 5 同上 6 モダニズムとドイツ文化 7 同上 8 ヴァイマル文化 9 同上 10 ナチズムとドイツ文化 11 同上 12 戦後ドイツの知的歴史 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		<p>講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

05年度以降 04年度以前	ドイツの思想 I ドイツの思想 a	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アドルノの『道徳哲学講義』をテキストとして読み、適宜コメントを加える。</p> <p>アドルノは、フランクフルト学派の代表的思想家として前世紀後半のドイツ思想展開の中で大きな役割を演じた。テキストはフランクフルト大学 1963 年夏学期に「道徳哲学の諸問題」というタイトルで毎週火曜と木曜の二回午後 4 時から 5 時まで行われた 17 回の講義の講義録である。昨年度の授業ではテキスト前半第 9 回講義まで読み終えたので今年度は第 10 回講義から始める。</p> <p>テキスト前半でアドルノは、まずカントの主著『純粋理性批判』弁証論に現れる自由と自然必然性のアンチノミー（二律背反）論を検討して、理論理性と実践理性の二元論を経由して実践理性の優位を説くカント道徳哲学へ分岐点を示した。</p> <p>テキストの後半で、アドルノは理論理性の限界を見定めて実践理性を重視したカントの立場に理解を示しつつも、現代の極端な合理主義の行き過ぎに影響を及ぼしているのではないかと疑問を呈し、現代において道徳哲学は社会批判なしには不可能であるという批判理論の根底に立って、現代思想の様々な問題を考察している。</p> <p>尚、始めの授業数回はテキスト理解のための導入部。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：アドルノの生涯と思想の概略を紹介する。 2. 導入：カントが『純粋理性批判』において遂行した認識論上のコペルニクス的転回 3. 導入：カントが『純粋理性批判』において提示した「自由と自然必然性」のアンチノミー論 4. 導入：カントが『純粋理性批判』において提示した「純粋理性の究極目的」 5. アドルノ著『道徳哲学講義』を第 10 回講義から読み進める。1 回分の講義を 3 ないし 4 回に分けて読みコメントを加える形で進むことを目安にしたい。以下同様。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：アドルノ著『道徳哲学講義』（作品社刊、2006 年）		期末定期試験（テキスト持込み）および、平常授業の 4, 5, 6 月の各月末に各 1 回簡単なメモの提出。	

05年度以降 04年度以前	ドイツの思想 II ドイツの思想 b	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準ずる。		春学期に準じ、テキストを読み進める。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準ずる。		期末定期試験（テキスト持込み）および、平常授業の 10, 11, 12 月の各月末に各 1 回簡単なメモの提出。	

05年度以降 04年度以前	ドイツの音楽 I ドイツの音楽 a	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（主に CD）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。春学期には、中世から 18 世紀までに書かれた多様な音楽作品をとりあげます。普段耳にする機会の少ない作品もありますが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>各回ごとにテーマを定めてお話しします。以下のようなテーマでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入、概観 ・ 中世の音楽 ・ 15～17 世紀の声楽作品 ・ 15～17 世紀のオルガン音楽 ・ 南ドイツのバロック音楽 ・ J. S. バッハの音楽 ・ ヘンデルとテレマンの音楽 ・ 前古典派の音楽 ・ ハイドンの音楽 ・ W. A. モーツァルトの音楽 <p>（複数回にわたってお話しするテーマもあります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況（2/3 以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、授業中に感想などを書いてもらいます。	

05年度以降 04年度以前	ドイツの音楽 I ドイツの音楽 b	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料で聴き、親しんでいただく授業です。秋学期には、18 世紀終わり頃から現代に書かれた音楽を、主に作曲家とその作品という観点からとりあげます。そのなかで、作曲の背景、書法上の特徴、音楽様式の変遷等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わりには、ドイツ語圏の国歌や民謡も扱う予定です。</p> <p>秋学期は、春学期の授業内容（18 世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく春学期から通年で履修してください。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>各回ごとにテーマを定めてお話しします。以下のような作曲家等の作品をとりあげることが予定されていますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベートーヴェン ・ シューベルト ・ シューマン ・ メンデルスゾーンとブラームス ・ リストとヴァーグナー ・ J. シュトラウス II 世と R. シュトラウス ・ ブルックナー、マーラー、新ウィーン楽派 ・ 20 世紀中葉以降のドイツの音楽 ・ ドイツ語圏の国歌 ・ ドイツ語圏のクリスマスの音楽 ・ ドイツ語圏の民謡 <p>（複数回にわたってお話しするテーマもあります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況（2/3 以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、授業中に感想などを書いてもらいます。	

05年度以降 04年度以前	ドイツの美術 I ドイツの美術 a	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、西洋美術史の大きな流れを把握しながら、ドイツ美術の特質を理解することを目的としています。前期は、ドイツが生んだ最大の画家であるアルブレヒト・デューラー（1471-1528）の作品を中心に扱います。デューラーが活躍した時代は後期ゴシックからルネサンスに移行する転換期であり、それは彼の作品が最もよく示しています。</p> <p>前期は特にデューラーが中世の伝統をいかに引き継いでいるかという点を、代表作『黙示録』の木版画連作を中心に詳しく見てゆきます。</p> <p>この講義では受講者が自分の目で作品をよく見て、それを記述するディスクリプションの時間を設けています。</p>		<p>前期 13 回にわたって、ゴシック芸術の造形的特質、ならびにその伝統を引き継いだデューラーの芸術について講義します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜授業中に指示します。		出席重視。学期末に筆記試験を行う。	

05年度以降 04年度以前	ドイツの美術 II ドイツの美術 b	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期はアルブレヒト・デューラーに焦点を絞り、具体的な作品研究を行います。後期はドイツ美術を取り巻く西洋美術の大きな流れも同時に概観します。</p> <p>デューラーの革新は様々な領域に見られますが、後期は特に「遠近法」、「人体比例」、「ヴェネチア絵画からの影響」をキーワードに、デューラーにおけるルネサンス的要素を中心に理解を深めます。</p> <p>最後に中世的要素と新しいルネサンス的要素がデューラー作品の中で具体的にどのように融合しているのかを概観します。</p> <p>前期に引き続き作品のディスクリプションをします。</p>		<p>13 回にわたり、デューラーにおけるルネサンス的要素を中心に講義します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜授業中に指示します。		出席重視。学期末に筆記試験を行う。	

05年度以降 04年度以前	ドイツの演劇Ⅰ ドイツの演劇 a	担当者	大塚 直
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ文化の核心は〈演劇〉にあるといっても過言ではない。18世紀末の「ドイツ運動」は、そもそもシェイクスピアやギリシア悲劇などの格闘を通じて生み出されてきたものであるし、ドイツ語圏では長らく〈演劇〉が国民を教育するための啓蒙のメディアとして機能してきた。そして現在でも、法外な助成金を受けてこの公共の劇場制度は維持されているのである。</p> <p>前期の授業では、1) 古代ギリシア悲劇やシェイクスピアの演劇を紹介した上で、2) ドイツ最初のドラマトゥルクであるレッシングの登場から、道徳的施設として劇場を捉えたゲーテとシラー、3) またその逸脱であるクライストやヘルダリーンの戯曲に触れる。さらに、4) 同時代の「社会性」と取り組んだレンツやビューヒナーらの戯曲を文化史的に位置付けながら、ドイツ近代の流れを演劇メディアとともに概観してゆく。</p> <p>いわゆる文学史・演劇史の流れをおさえるとともに、今日でもドイツ語圏の劇場で頻繁に上演される古典作家たちの問題作と〈共時的〉に取り組みながら、時代の矛盾を照らし出す鏡としての演劇の存在意義を問う。彼らの美意識や政治感覚は、現代ドイツの政治文化を考えるうえでも極めて重要なのである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス Drama と Theater、ドイツ演劇の魅力とは？ 2. 近代ドイツ演劇の勃興 悲劇と喜劇、シェイクスピアへの道 3～4. 先駆者レッシングの演劇理論 『ハンブルク演劇論』、劇詩『賢者ナータン』など 5～6. 若きゲーテとシュトゥルム・ウント・ドラングレンツの喜劇『家庭教師』と『軍人たち』 7～8. ドイツ古典主義の演劇、ゲーテとシラー 『ゲッツ』、『ファウスト』、『群盗』、『テル』など 9～10. クライスト劇における無意識／マリオネット 『ペンテジレイア』、『公子ホムブルク』など 11. 悲劇的なものと哲学 ヘルダリーンと悲劇断片『エムペドクレス』 12. 小説の時代(=19世紀)の演劇 ヘッペルの悲劇『ユードイット』やワーグナーの「楽劇」 13. 「ドラマの危機」と現代演劇の先駆者ビューヒナー 革命劇『ダントンの死』と社会劇『ヴォイツェク』 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、プリントを配布する。また必要に応じてビデオ教材を使用する。参考文献は、授業中に指示する。		出席状況、および授業内容から出題される論述形式の学期末試験を行って、それらから総合的に評価する。	

05年度以降 04年度以前	ドイツの演劇Ⅱ ドイツの演劇 b	担当者	大塚 直
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀初頭の「写真」「ラジオ」「映画」などニュー・メディアの勃興に伴って、人類の〈知覚様式〉は大きく変容を蒙ることになる。このような社会環境の刷新とともに演劇メディアもまた変貌を遂げねばならなくなった。従来は作家／テキストを中心に考察され、文学研究の一部門であった演劇は、演出家／パフォーマンスを中心に据えた視座から学として独立し、「演劇学」が誕生するのである。</p> <p>後期の授業では、1) 19世紀末の「自然主義」の到来あたりから講義を進め、2) 上述のメディア論的視座から、新時代に即して新たに〈演劇〉を構築し直したブレヒトの戯曲を実践的な舞台映像とともに概観する。3) 1960年代末、〈政治の季節〉とともに演劇は新たなパラダイム・シフトの時を迎え、演劇の「パフォーマンス的転回」(フィッシャー＝リヒテ)やいわゆる「ポストドラマ演劇」(レーマン)が次第にキーワードとなってゆくが、その文脈から若きハントケの「純粹言語劇」、寺山修司の「市街劇」、ハイナー・ミュラーの演劇テキストなどを順次、紹介してゆく。さらに、4) 再統一以降のドイツ語圏の演劇シーンに登場してきた新進劇作家マイエンブルク、シンメルプフェニヒ、モーリッツ・リンケらの戯曲を紹介し、現代ドイツにおける〈同時代演劇〉の特徴を指摘したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 世紀末ウィーンの演劇 ホフマンスタールとシュニッツラー 2. ハウトマンの登場 「自由劇場」の創設と『日の出前』など 3. ヴェーデキントにおける〈性〉の問題 『春の目覚め』と『ルル二部作』 4～5. 「演劇学」の勃興と新しいメディア美学 若きブレヒトの登場と音楽劇『三文オペラ』 6. ブレヒトの「教育劇」について マルクス主義への接近と問題作『処置』など 7～8. 後期ブレヒトと4大作品の紹介 『ガリレイの生涯』や『肝っ玉おっ母』など 9～10. 1968年と〈演劇革命〉の時代 ペーター・ハントケの「純粹言語劇」、ヴァルザーと「意識の演劇」、寺山修司のヨーロッパ公演など 11. 「ポストドラマ演劇」の勃興 ハイナー・ミュラーの『ハムレットマシーン』など 12. ボートー・シュトラウスと劇団シャウビューネ 『避暑に訪れた人びと』、『公園』、『終合唱』など 13. 現代ドイツにおける〈同時代演劇〉の紹介 劇作家マイエンブルクやシンメルプフェニヒなど 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、プリントを配布する。また必要に応じてビデオ教材を使用する。参考文献は、授業中に指示する。		出席状況、および授業内容から出題される論述形式の学期末試験を行って、それらから総合的に評価する。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ思想・芸術各論Ⅰ ドイツ思想・芸術各論a	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一昨年はH・ハイネ没後150周年でした。ハイネは日本では「ローレライ」の作詞者・抒情詩人として知られています。歌曲の好きな人なら、シューマンやシューベルトがハイネの詩に曲をつけた歌曲集を知っているでしょう。けれどもハイネは、少年時代をフランス革命軍の駐留していたデュッセルドルフで過ごし、ボンやゲッティンゲンで法律を学び、ベルリンでヘーゲルの哲学講義を聞き、その影響を受けた革新的思想家でもあったのです。</p> <p>ハイネ自身の思想は詩の形でも散文作品の形でも著されていますが、この講義では『ドイツ宗教・哲学史考』を採り上げ、ハイネがドイツ人の宗教観・世界観をどのようにとらえていたかを説明します。</p> <p>ゲルマン神話を背景に、ルターがどのようにカトリック教会を批判し、宗教改革を成し遂げ、かつドイツ語の統一に貢献したか、スピノザとレッシングがどのような形でドイツ古典哲学の先駆けとなったか、そしてカント、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルらによる「哲学革命」がどのようにして起こったかを、ハイネが哲学的でも宗教的でもない、ハイネ独特のイロニーニッシュなスタイルで論じていることを紹介します。</p> <p>また、講義の合間に、できるだけハイネの詩による歌曲を紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ハイネ紹介と序文 2. 第1巻 宗教改革とマルチン・ルター 人民の哲学 3. 同 キリスト教と民間信仰 4. 同 マルチン・ルターと民間信仰 5. 同 唯心論と感覚主義 6. 同 宗教改革と思想の自由 7. 同 ルターによるドイツ文語の確立 8. 同 ルターとドイツ文学 9. 第2巻 ドイツ哲学革命の先駆者スピノザとレッシング 現代哲学の父デカルト 10. 同 唯物論と観念論 11. 同 スピノザ 12. 同 レッシング 13. まとめと復習 <p>以上はおおまかな計画であり、若干順序と範囲が狂うことがあることをあらかじめ承知してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Zur Geschite der Religion und Philosophie in Deutschland 『ドイツ宗教・哲学史考』 (少人数であれば、全文のコピーを配布します。)		授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを書いて、これを自己評価してもらい、それをもとに評価を決めます。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ思想・芸術各論Ⅱ ドイツ思想・芸術各論b	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一昨年はH・ハイネ没後150周年でした。ハイネは日本では「ローレライ」の作詞者・抒情詩人として知られています。歌曲の好きな人なら、シューマンやシューベルトがハイネの詩に曲をつけた歌曲集を知っているでしょう。けれどもハイネは、少年時代をフランス革命軍の駐留していたデュッセルドルフで過ごし、ボンやゲッティンゲンで法律を学び、ベルリンでヘーゲルの哲学講義を聞き、その影響を受けた革新的思想家でもあったのです。</p> <p>ハイネ自身の思想は詩の形でも散文作品の形でも著されていますが、この講義では『ドイツ宗教・哲学史考』を採り上げ、ハイネがドイツ人の宗教観・世界観をどのようにとらえていたかを説明します。</p> <p>ゲルマン神話を背景に、ルターがどのようにカトリック教会を批判し、宗教改革を成し遂げ、かつドイツ語の統一に貢献したか、スピノザとレッシングがどのような形でドイツ古典哲学の先駆けとなったか、そしてカント、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルらによる「哲学革命」がどのようにして起こったかを、ハイネが哲学的でも宗教的でもない、ハイネ独特のイロニーニッシュなスタイルで論じていることを紹介します。</p> <p>また、講義の合間に、できるだけハイネの詩による歌曲を紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 『ドイツ宗教・哲学史考』第3巻 哲学革命 序 2. カントとロベスピエール 3. カントの『純粹理性批判』 4. いわゆるコペルニクスの転回 5. ドイツの哲学革命 6. フィヒテ哲学の主観的形式 7. 無神論論争 8. ゲーテとフィヒテ 9. シェリングの自然哲学 10. 自然哲学と汎神論 11. ヘーゲルによる自然哲学の大成 12. ドイツの政治革命への見通し 13. ヘーゲル以後 <p>以上はおおまかな計画であり、若干順序と範囲が狂うことがあることをあらかじめ承知してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Zur Geschite der Religion und Philosophie in Deutschland 『ドイツ宗教・哲学史考』 (少人数であれば、全文のコピーを配布します。)		授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを書いて、これを自己評価してもらい、それをもとに評価を決めます。	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏にはドイツやオーストリアのほかにスイスという国もあることを忘れてはならない。この時間には、スイスをキーワードにして、スイス文化の特徴を分かりやすく論じた評論を読み、どの点でドイツ・オーストリアと異なるのかを考える。</p> <p>今回はまず、20世紀を代表するスイス人作家フリッシュ（Max Frisch）の『歓楽境スイス』『清算されざるスイスの過去』『故郷としてのスイス』などを読む。中立国スイスの市民である彼は戦争を直接に体験することはなかったが、ファシズムや戦争に対する責任の問題、現代世界に対して知識人はいかに対処すべきか、個人や社会がいかにして自由を保持しうるかという問いなどが追究されていく。</p>		<p>単にドイツ語の訳読におわらず、中身をじっくり味わいながら、進んでいく。また、出席者全員で極力コミュニケーションができるような授業にしたい。</p> <p>精一杯の予習をしてから授業に出席してほしい。間違えても一向にかまわない。とにかく自分なりに納得のいく発表をしてほしい。</p> <p>（視覚的効果を上げるためビデオなどの使用も考慮する）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはコピーして配布する。 参考文献は授業中に折にふれて指示する。</p>		<p>普段の授業中の発表と期末のテスト、あるいはレポート提出などにより総合的評価をする。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期に準じる。 ただし、受講者との相談の上、場合によって春学期と異なるテキストを選ぶこともある。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ブレヒト著『コイナー氏の話』を読む。ブレヒトは 20 世紀有数の劇作家。『三文オペラ』（1928）の映画化で、世界的に名を知られたが、日本でもなかなか人気があり、今年に入って北千住でも草笛光子主演で、『肝っ玉おっ母とその子供たち』が上演された。</p> <p>テキストは、架空の人物コイナー氏に託してブレヒト自身が語るエッセイともアフォリズムともいえる短い散文集である。執筆時期は、1926年から1956年までにわたり（ただし本書収録分は1953年まで）、その間のワイマール共和国、ナチス政権、亡命、東ドイツへの帰国体験が反映している。</p>		<p>毎回テキスト2ページ前後読み進める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『コイナー氏の話』（郁文堂）		授業におけるテキスト朗読及び訳読の担当と学期末試験。	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準ずる。		春学期に準ずる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準ずる。		春学期に準ずる。	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： グリム兄弟の「ドイツ伝説集」に収められた「ハーメルンの子供たち」を縦糸に、様々な分野に波及している作品等を講読しながら、約束の持つ意義や共生と福祉の思想を探りたい。</p> <p>講義概要： 現地の野外劇を紹介後、伝説、絵本、ゲーテの物語詩 Der Rattenfänger とこれに付曲したシューベルトの歌曲、Hannes Wader のフォークソング Rattenfänger、ラジオドラマ（放送劇）の中から原典や台本等を語学的に忠実に講読する。 尚、講義に関連した映像や音楽、音源も随時紹介する予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. グリム兄弟と「ドイツ伝説集」 2. グリム兄弟と「ドイツ伝説集」 3. 絵本 4. 絵本 5. ゲーテと物語詩 6. ゲーテと物語詩 7. ゲーテとシューベルト 8. ゲーテとシューベルト 9. H. Wader とフォークソング 10. H. Wader とフォークソング 11. ラジオドラマ（放送劇） 12. ラジオドラマ（放送劇） 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：印刷教材 参考文献：講義時に紹介の予定</p>		出席、発表、定期試験を中心に総合的に評価する。	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 韻を踏んだ文と愉快的な絵を駆使した、ドイツ漫画の草分けの作家、ヴィルヘルム・ブッシュ著「マックスとモーリッツ」等の講読を通して風刺と教育の思想を探りたい。</p> <p>講義概要： 様々な悪戯（いたづら）に飽きることのない二人の腕白小僧が登場する「マックスとモーリッツ」の原典並びにラジオドラマ（放送劇）の台本等を語学的に忠実に講読する。 尚、講義に関連した映像や音楽、音源も随時紹介する予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ヴィルヘルム・ブッシュ 2. 「マックスとモーリッツ」 3. 「マックスとモーリッツ」 4. 「マックスとモーリッツ」 5. 「マックスとモーリッツ」 6. 「マックスとモーリッツ」 7. 「マックスとモーリッツ」 8. 「マックスとモーリッツ」 9. 「マックスとモーリッツ」 10. 「マックスとモーリッツ」 11. 「マックスとモーリッツ」 12. 「マックスとモーリッツ」 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：印刷教材 参考文献：講義時に紹介の予定</p>		出席、発表、定期試験を中心に総合的に評価する。	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	林部 圭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ドイツの文化・思想に関するドイツ語の文章を理解できるようにする。</p> <p>講義概要： この授業では中世の神秘思想家 Hildegard von Bingen (1098-1179)の伝記を読みます。 最近のドイツで自然食の食料品店に、ヒルデガルトのレシピにより焼いたビスケットなどが置かれたりして、自然の力、神秘の力によって癒すことへの関心が高まっています。それとともに神秘思想家 Hildegard von Bingen についての本もたくさん出版されました。その中のわかりやすいドイツ語で書かれた一冊を読みましょう。テキストのコピーを配布します。</p>		<p>毎回数ページずつ進みます。出てくる単語や熟語、文法、専門用語などを解説しながら進めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Eberhard Horst 著：Hildegard von Bingen. Die Biographie 2003		定期試験のテスト、授業中に行う小テスト、出席状況、授業態度などから評価します。	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	林部 圭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ドイツの文化・思想に関するドイツ語の文章を理解できるようにする。</p> <p>講義概要： この授業では中世の神秘思想家 Hildegard von Bingen (1098-1179)の伝記を読みます。 最近のドイツで自然食の食料品店に、ヒルデガルトのレシピにより焼いたビスケットなどが置かれたりして、自然の力、神秘の力によって癒すことへの関心が高まっています。それとともに神秘思想家 Hildegard von Bingen についての本もたくさん出版されました。その中のわかりやすいドイツ語で書かれた一冊を読みましょう。テキストのコピーを配布します。</p>		<p>受講者の移動が少なければ、春学期のテキストを読み続けます。 毎回数ページずつ進みます。出てくる単語や熟語、文法、専門用語などを解説しながら進めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Eberhard Horst 著：Hildegard von Bingen. Die Biographie 2003		定期試験のテスト、授業中に行う小テスト、出席状況、授業態度などから評価します。	

03年度以降	ドイツ語講読（芸術）	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義主題：蜜蜂マーヤの理解社会学（Verstehende Soziologie von Biene Maja）</p> <p>講読目的と概要：</p> <p>主題は自分の居場所を探して冒険するマーヤの理解社会学。ドイツでは今、マックス・ヴェーバーの「理解社会学」（1913年）が注目を浴びている。当時のドイツを席卷していた表現主義運動と並び、ベストセラーになっていたヴァルデマール・ボンセルスの「蜜蜂マーヤの冒険」（1912年）を手掛かりに、世界大戦前夜の公共性のマスクしたヒトの不安な素顔に迫る。蜜蜂マーヤは日本のアニメでも知られているが、原作はドイツ語だということを知らない人が多い。ドイツ語圏の自然に培われた社会的人格（Sozial-Person）を表現するだけでなく、個別の内奥的人格（Intime Person）を保証する点で、ドイツ語は他に類を見ない社会学の言語である。講読の目標は自然と社会のコンフリクトを解決する創造的言語感性を培うこと、アメリカの解釈社会学（Interpretative Sociology）の成果に学びつつ読み直しが進むドイツの理解社会学（Verstehende Soziologie）の言論的世界にアプローチしたい。自分が社会人として何処に属し、同時に何処にも依存しない自由な主体であることをマニフェストするに、独文学に於ける表現主義か社会学の行動主義かという二者択一でない、相互学習可能な言語社会学的地平が問われる。</p> <p>マーヤという「飛ぶモノの目線」（Vogel-perspektiv）に立ち、彼女のどのような疑問から発しどの実践からこの理論か自分の目で確かめてもらいたい。ドイツ社会の自然言語でする発話スタイルに慣れ親しみ、聞き分ける力・対話技巧の美的センスをスキルアップする。二つの世界大戦の狭間で虚空に投げ出されたドイツの若者たちを魅了し自己再建を助けた大人の童話（Märchen für Erwachsene）を批判的に読み解きながら、三年生にはドイツ語文章論の基礎的訓練を、四年生には原書を翻訳せずに分節化する訓練を促す。積極的参加とドイツ語での討議を期待している。表現主義的自己の限界と可能性を究めるために、クリエイティブに働くモノで差別的価値の壁を見破り、「存在の彼方」に越え出るヒトへ自らチャレンジして欲しい。</p>		<p>ボンセルスの「蜜蜂マーヤの冒険」を月に三回、リヒターの「マニュアル・理解社会学」を一回の周期で読破する。いずれも大変読みやすいので、安心して参加して欲しい。</p> <p>春学期は原書の素読に徹し、読み方・分節化の手解きを試み、「理解と解釈」社会学言論の基本的術語に慣れ親しむ。</p> <p>第一回目はBiene MajaのVideoを鑑賞して全体イメージを捉え、共感のポイントを探る。第二回目以降はマーヤの疑問・発言と応答・行動の観察と結果を折に触れて分析する。</p> <p>0. 「飛ぶモノ」に語らせ聴き入る世界</p> <p>1. 理解と解釈の枠組み、対話の技巧、</p> <p>2. 逃亡と帰郷、「誤ちは生産的である」</p> <p>3. 理解社会学の言論的位置づけ、</p> <p>4. 三つの前提、存在論的解明、自然と精神のコンフリクト理解と説明、社会行為としての自己表現と批評</p> <p>5. 心理的・文法的・歴史的問題の解釈</p> <p>6. 「語るモノとヒト」について、知恵文学に於ける人格性と非人格性、物語のメタア論的構成と課題</p> <p>7. 独文学と社会学の言論的課題、耽美主義と理想主義（ユートピア論）、理念型思考との接点、共感的地平融合と離反の構造</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>1. Waldemar Bonsels, “Die Biene Maja und ihre Abenteuer “（『蜜蜂マーヤの冒険』, 1912）, “Das Himmelsvolk “（『天の住民－自然と動物と神の世界』）, München, Saur 2003、講読書</p> <p>2. Rudolf Richter, “Manual Verstehende Soziologie” . Wien, 2002、併読書</p> <p>3. 宮村重徳『理解社会学のコンプレメンタリズム（試論）－マックス・ヴェーバー解釈のメタファー論的考察』（法政大学『多摩論集』第24号、2008年）</p>		<p>三年生には出席と講読への積極的参加、評価方法は筆記試験かレポートを選択、四年生の場合、評価方法は各自の判断に任せ。卒業年度の学生の成績は基本的に自己申告制。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（芸術）	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<p>秋学期は春学期の課題を継続し展開する。</p> <p>「蜜蜂マーヤ」を手掛かりに自己理解と解釈の可能性を探る。方法としては、1. 自分なりのイメージ分析と問いの発見、2. 自分とは異なる仕方で理解し解釈されたモノを逆比で学ぶ、3. コミュニケーション行為の枠組み、4. 主題と争点の絞り込み方・レポートの書き方を外国書講読の範囲内で模索する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>1. 春学期のリストの他に以下の文献参照。Gerhard Altenhoff, Die Biene Maja, der glückliche Löwe und die Sozialversicherung (2006); Gerhard Mackenroth, “Zweckverstehen und Ausdrucksverstehen“.</p>		<p>春学期に準じる。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（芸術）	担当者	洲崎 惠三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>I 昨年秋季の続き。ドイツ語読解力をつけること。文意を把握する練習。ドイツ語テキストを読み、かつ訳す。文法事項を質問し、説明する。文意を把握することが肝要。購読力をつけるため、なるべく毎回少しでもみずから試行錯誤でトライすること、すなわち練習が肝要。その努力向上を評価する。</p> <p>II オーストリアの現存作家ペーター・ハントケの『サント・ヴィクトワール山の教え』第2, 3章を読む。</p> <p>III エクサン=プロヴァンスからサント・ヴィクトワール山をさすらいつつ、詩人は画家の描いた美に <i>nunc stans</i>（静止せる永遠の現在）を見出す。詩や絵画が追求するものとは何か。抽象か感情移入か (Wilhelm Worringer)? 形式と内容の一致か乖離か (Hegel)? アイデアか現象か (Platon)?</p>		<p>章立て：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大きなアーチ 2. 色彩の丘陵 3. 哲学者の高原 4. 桑の実の道 5. 狼の跳躍 6. 絵のなかの絵 7. 冷たい荒野 8. 独楽の丘 9. 偉大な森 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリント配布。参考図書として図書館に展示。 Peter Handke: Die Lehre der Sainte=Victoire Suhrkamp, Frankfurt am Main, 1980 参考文献： 吉田秀和『セザンヌ物語』I、II、中央公論社 1986年 小林秀雄『近代絵画』、新潮社、昭和33年 ヘーゲル『美学講義』、長谷川宏訳、作品社、1995-96年 ヴォリンゲル『抽象と感情移入』、岩波文庫 B650-1 1981 洲崎惠三『神話とイロニー』、<i>nunc stans</i>（静止せる現在）の章、溪水社、2002年</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) 筆記試験：辞書持ちこみで、どれだけ正確に、どれだけ多く文を読めるか、のテスト。 2) テキストの邦訳（全訳でなくても可）提出。 3) 授業にて発表、発音、文法力、読解力をみる。 4) 試行錯誤の努力の跡を評価したい。 	

03年度以降	ドイツ語講読（芸術）	担当者	洲崎 惠三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>I 春学期の続き。ドイツ語読解力をつけること。文意を把握する練習。ドイツ語テキストを読み、かつ訳す。文法事項を質問し、説明する。文意を把握することが肝要。購読力をつけるため、なるべく毎回少しでもみずから試行錯誤でトライすること、すなわち練習が肝要。その努力向上を評価する。</p> <p>II オーストリアの現存作家ペーター・ハントケの『サント・ヴィクトワール山の教え』第4, 6章を読む。</p> <p>III エクサン=プロヴァンスからサント・ヴィクトワール山をさすらいつつ、詩人は画家の描いた美に <i>nunc stans</i>（静止せる永遠の現在）を見出す。詩や絵画が追求するものとは何か。抽象か感情移入 (ヴォリンゲル) か? 形式と内容の融合か齟齬か (ヘーゲル)? アイデアか現象か (プラトン)?</p>		<p>章立て：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大きなアーチ 2. 色彩の丘陵 3. 哲学者の高原 4. 桑の実の道 5. 狼の跳躍 6. 絵のなかの絵 7. 冷たい荒野 8. 独楽の丘 9. 偉大な森 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントする。 Peter Handke: Die Lehre der Sainte=Victoire Suhrkamp, Frankfurt am Main, 1980 参考文献： 吉田秀和『セザンヌ物語』I、II、中央公論社 1986年 小林秀雄『近代絵画』、新潮社、昭和33年 ヴォリンゲル『抽象と感情移入』、岩波文庫 B650-1 1981 ヘーゲル『美学講義』、長谷川宏訳、作品社、1995-96年 洲崎惠三『神話とイロニー』、<i>nunc stans</i>（静止せる現在）の章、溪水社、2002年</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) 筆記試験：辞書持ちこみで、どれだけ多く、文を読めるか、のテスト。 2) テキストの邦訳（全訳でなくても可）提出。 3) 授業にて発表、発音、文法力、読解力をみる。 4) 試行錯誤の努力の跡を評価したい。 	

03年度以降	ドイツ語講読（芸術）	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 下記テキストの講読を通して、1、2年生の基礎ドイツ語I～IVで身につけたドイツ語文法の知識を再確認し定着させるとともに、ドイツ語で書かれたテキストへのアプローチの仕方を学ぶことを目的とします。</p> <p>(概要) 下記テキストの精読が授業の中心になりますが、テキストの理解を深めるという意味で、テキストに登場する重要な人物や事件・事項について担当者を決めて調べ・報告していただいたり、あるいは、テキストの内容と関連する文献や資料などを適宜指示し、やはり担当者を決めてその内容について報告していただくこともあります。</p>		<p>詳しい授業計画については、第一回目の授業で説明します。履修希望者は、必ずこの説明を聞いてください。</p> <p>テキスト訳読の担当者については、前もって決めておくことはしません。毎回その場で担当者を指名します。誰が指名されてもいいように、全員必ず予習をしておいてください。指名されて予習していない場合は、欠席扱いにします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Herbert Haffner 著/小名木榮三郎編注『ベルリン・フィル物語』（Geschichte des Berliner Philharmonischen Orchesters）朝日出版社、1993年		学期末筆記試験＋授業への参加度（テキストの訳読担当、人物・事件等についての調査・報告、関連文献の内容報告など）で評価します。	

03年度以降	ドイツ語講読（芸術）	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 下記テキストの講読を通して、1、2年生の基礎ドイツ語I～IVで身につけたドイツ語文法の知識を再確認し定着させるとともに、ドイツ語で書かれたテキストへのアプローチの仕方を学ぶことを目的とします。</p> <p>(概要) 下記テキストの精読が授業の中心になりますが、テキストの理解を深めるという意味で、テキストに登場する重要な人物や事件・事項について担当者を決めて調べ・報告していただいたり、あるいは、テキストの内容と関連する文献や資料などを適宜指示し、やはり担当者を決めてその内容について報告していただくこともあります。</p>		<p>詳しい授業計画については、第一回目の授業で説明します。履修希望者は、必ずこの説明を聞いてください。</p> <p>テキスト訳読の担当者については、前もって決めておくことはしません。毎回その場で担当者を指名します。誰が指名されてもいいように、全員必ず予習をしておいてください。指名されて予習していない場合は、欠席扱いにします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Herbert Haffner 著/小名木榮三郎編注『ベルリン・フィル物語』（Geschichte des Berliner Philharmonischen Orchesters）朝日出版社、1993年		学期末筆記試験＋授業への参加度（テキストの訳読担当、人物・事件等についての調査・報告、関連文献の内容報告など）で評価します。	

03年度以降	ドイツ語講読（芸術）	担当者	飯沼 隆一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2年生までの基礎力の上に、これまでより専門性を持ったより高度なテキストを扱うのが「講読」の前提とされます。それゆえ正確に読むことの訓練がこの時間の眼目でしょう。しかし自分にとって興味を持てるものならば自然にその能力は伸びるし「読み」のもとには日本語での読書経験があるのは当然だと思われます。その点も含めて一歩一歩積み重ねていきたい。</p> <p>春学期は音楽、秋学期は造形芸術にかかわるもの予定しています。ひろく芸術に興味のある人の積極的な参加を希望します。</p>		<p>モーツアルトのオペラ『魔笛』のストーリーを簡略に物語としてまとめた下記のテキストを用います。これにはかなりの歌詞（オリジナル）が含まれます。</p> <p>テキストの読解とともにこの不思議なオペラの文化的意味や時代背景についても考えてみたい。もちろん機会を見てCDやDVDを用いて上演のドキュメントに接するようにしたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>カピツア・平井『モーツアルト 魔笛』（同学社） 参考：ヒルデスハイマー『モーツアルトは誰だったのか』（白水社）</p>		<p>平常点（出席、解答回数）と定期試験で決めます。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（芸術）	担当者	飯沼 隆一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。テキストはまだ未定ですが造形芸術に関するものをひろくエッセイや論文から選びたい。</p>		<p>春学期同様決められたテキストを順を追って読んでもらいます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期に準じる。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	

05年度以降 04年度以前	ドイツ史概論 I ドイツ史概論 a	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にもオーストリアやスイスも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”を養うことになる。</p> <p>春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦の勃発までを対象に、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間授業計画、評価方法、参考文献等についての説明 2. 歴史とは何か。主要な歴史方法論の解説 3. 「記憶」をめぐる論争。ドイツ・オーストリアの「警鐘碑」論争を紹介し、歴史研究の意義と可能性を検討 4. ビデオ上映と解説：『ショア』関連 5. ハプスブルク帝国史（13世紀以降） 6. 19世紀史（1）：ナポレオン時代のドイツ 7. 19世紀史（2）：1848年革命の社会史 8. 19世紀史（3）：若きヒトラーと世紀末ウィーン 9. 現代の開幕（1）：ドイツ統一と世界帝国への夢 10. 現代の開幕（2）：第一次世界大戦。原因論 11. 現代の開幕（3）：第一次世界大戦。経過と帰結 12. ビデオ上映と解説：「第一次世界大戦」関連 13. 春学期の総括と討論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回講義レジュメを配布する。加えて、年数回、課題図書目録を配布する。		学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。	

05年度以降 04年度以前	ドイツ史概論 I ドイツ史概論 b	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、ワイマール共和国の成立期からヒトラーの独裁を経て、第二次世界大戦の終結にいたる20世紀の激動の時代を検討する。</p> <p>あわせて、戦後ドイツでナチズムや戦争の記憶がどのように受け継がれてきたかを、いくつかの主要論争の内容を紹介しながら他国の類似事例と比較検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 革命の時代。ドイツ革命とオーストリア革命 2. ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 3. ファシズムの誕生。イタリア・ドイツ・オーストリア 4. ファシズム論の変遷 5. 危機の30年代（1）：ナチズムの台頭と民主的政治システムの崩壊 6. 危機の30年代（2）：戦間期の国際政治 7. 受容と抵抗：ナチス体制下の民衆生活 8. ビデオ上映と解説：「ナチズム」関連 9. 第二次世界大戦（1）：大戦の経過と帰結 10. 第二次世界大戦（2）：加害と迫害 11. 大戦の終結と戦後世界 12. ドイツ・オーストリアにおける戦後の歴史認識 13. 秋学期の総括と討論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回講義レジュメを配布する。加えて、年数回、課題図書目録を配布する。		学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。	

05年度以降 04年度以前	ドイツの歴史 I ドイツの歴史 a	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>ウィーン・都市とユダヤの歴史</u> ローマ帝国の軍事拠点から神聖ローマ帝国およびハプスブルク帝国の帝都となり、第一次世界大戦後は小国中立オーストリアの首都となったウィーンの都市としての歴史とそこでのユダヤが果たしていた役割についてみていく。		I. 都市ウィーンの成立とユダヤの役割 II. ハプスブルク帝国におけるウィーンのユダヤ変遷 III. 帝国崩壊後のウィーンのユダヤの運命	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に紹介		レポート	

05年度以降 04年度以前	ドイツの歴史 II ドイツの歴史 b	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>ハプスブルク帝国とユダヤの歴史</u> ハプスブルク帝国内のユダヤの歴史をとくにプラハとブダペストを中心にみていく。		I. プラハの都市とユダヤの歴史 II. ブダペストの都市とユダヤの歴史	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に紹介		レポート	

05年度以降 04年度以前	ドイツの社会・事情 I ドイツの社会・事情 a	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Unterricht werden grundlegende Tatsachen über Deutschland behandelt. Die Themen sind aus verschiedenen Bereichen wie Politik, Länder, Bildung, Sozialstruktur, Kultur.</p> <p>Wichtig ist aktive Mitarbeit.</p> <p>Alle müssen im Unterricht ein kurzes Referat über ein Thema machen, das im Rahmen „Deutsche Gesellschaft“ selbst gewählt werden kann.</p>		<p>Kurze Einführung in die Geschichte und Geographie Deutschlands, Aufbau des Staates, Länder, Politik, Sozialstruktur, Bildung, Ausbildung und Forschung, Kultur, Medien, Modernes Leben, Aktuelles.</p> <p>授業で希望も聞きます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Tatsachen über Deutschland, Deutsche Botschaft. インターネット、 コピーの配布をします。		出席、小発表。	

05年度以降 04年度以前	ドイツの社会・事情 II ドイツの社会・事情 b	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、ドイツ語圏の国々におけるアクチュアルな政治・経済・社会事情をドイツ語の新聞・雑誌記事などを通じて学び、討論する。 時々のホットなニュースを中心に扱う。国ごと、あるいはメディアごとに異なる見解が見られるが、複数のメディアを読み比べ、その背景を探りたい。 媒体として、主として以下の新聞や雑誌記事を念頭に置いている（すべて図書館蔵）。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Frankfurter Allgemeine Zeitung - Frankfurter Rundschau - Die Tageszeitung - Neue Zürcher Zeitung - Der Spiegel <p>専門講読の授業ではないので、まとまりのある量を読みたいが、参加者の様子を見ながら進める。毎回、担当者には内容を要約したレジュメを用意してきてもらう。文法に関する確認を行ったのち、内容についての議論を行いたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：ドイツ語圏のメディア、授業の進め方 2. 新聞・雑誌記事の輪読 3. 同 4. 同 5. 同 6. 同 7. 同 8. 同 9. 同 10. 同 11. 同 12. 同 13. 同 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献 伊藤光彦『ドイツ語情報世界を読む』白水社、2001年。		分担発表の評価、定期的出席、期末レポート	

05年度以降 04年度以前	ドイツの地誌・民俗 I ドイツの地誌・民俗 a	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ライン川は、スイス・アルプスに源を発し、リヒテンシュタイン、オーストリア、ドイツ、フランスを経てオランダで北海に注ぐヨーロッパを代表する国際河川である。古くからライン川はヨーロッパの南北交通の大動脈として機能しており、その流域には多くの都市が発展した。本講義では、ドイツ人が「父なるライン」と呼ぶライン川の流れに沿って、流域の各都市の特性を明らかにしながら受講者とともに旅をしていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：ライン川の地理 2. Alpenrhein：アルプス山村 3. Hochrhein：ボーデン湖 4. スイス全般 5. Oberrhein：バーゼル 6. Oberrhein：アルザス 7. Oberrhein：シュバルツバルト 8. Mittelrhein：ローレライ 9. Niederrhein：ボンとケルン 10. Niederrhein：ルール工業地帯 11. Niederrhein：ミュンスターと EUREGIO 12. オランダ全般 13. まとめ：ライン川流域空間 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。 授業中に資料を配布する。</p>		レポートもしくは試験により評価	

05年度以降 04年度以前	ドイツの地誌・民俗 II ドイツの地誌・民俗 b	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、ドイツの都市の構造とその変容を把握することを目的とする。特に、ドイツ再統一、ヨーロッパ統合の深化と拡大、地方分権型国家、という三つの側面に光を当てて、具体的な事例をもとに明らかにしていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：ドイツの都市 2. 再統一とドイツ都市(1)：ベルリンの地政学 3. 再統一とドイツ都市(2)：冷戦時代のベルリンの都市構造 4. 再統一とドイツ都市(3)：ベルリン再開発(1) 5. 再統一とドイツ都市(4)：ベルリン再開発(2) 6. ヨーロッパ統合とドイツ都市(1)：外国人問題 7. ヨーロッパ統合とドイツ都市(2)：EU 地域政策 8. ヨーロッパ統合とドイツ都市(3)：ユーロリージョン 9. 地方分権とドイツ都市(1)：多極分散型国家 10. 地方分権とドイツ都市(2)：空間整備政策 11. 地方分権とドイツ都市(3)：都市計画 12. 地方分権とドイツ都市(4)：フライブルクのまちづくり 13. まとめ：「都市」という空間 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。 授業中に資料を配布する。</p>		レポートもしくは試験により評価	

05年度以降 04年度以前	ドイツの政治・対外関係 I ドイツの政治・対外関係 a	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ドイツ人」という意識の芽生えた19世紀初頭以降、ドイツ帝国の建設、第一次世界大戦・敗戦・第二次世界大戦・敗戦・分断国家・「統一」という激変する状況に、ドイツはどのように対応してきたのでしょうか。ドイツの対外政策を中心に各時代の国際関係を概観します（できるだけ多くの映像資料を活用する予定です）。</p> <p>また、可能な範囲で日本の事例も対照することによって、ドイツの対外政策をより明確にしたいと考えています</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 第一次世界大戦までのドイツの対外関係 3. 第一次世界大戦からヴァイマル共和国期の対外関係 4. ナチスの対外政策 5. ドイツの極東政策（対日関係） 6. 第二次世界大戦の終結と連合国の占領政策 7. ニュルンベルク裁判と東京裁判 8. 冷戦と東西ドイツの分裂 9. 西ドイツの東方政策 10. 東西ドイツの「統一」 11. 近隣諸国との対話と和解 12. 歴史問題・戦後補償と賠償問題（日独比較） 13. 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は必要に応じて適宜指示します。		授業時のまとめ・理解度チェックと期末試験（またはレポート）	

05年度以降 04年度以前	ドイツの政治対外関係Ⅱ ドイツの政治・対外関係b	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、日本の制度と比較しつつ、ドイツの政治制度に対する理解を深めます。</p> <p>各テーマの最初に、学生はあらかじめ指示された調査項目にしたがって、分担して日本とドイツのシステムを調べ短い発表を行います。次に、各テーマの歴史的経緯や問題点などについて講義をおこない、その後グループで討議するという形式の授業を予定しています。</p> <p>ただし、参加者の人数によっては、授業の進め方を変更する可能性もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 連邦制と地方自治 3. 同上 4. 政党と選挙制度 5. 同上 6. 基本法と憲法 7. 同上 8. 司法制度 9. 同上 10. 軍隊・兵役 11. 同上 12. 福祉制度 13. 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は必要に応じて適宜指示します。		授業への参加度とレポート	

05年度以降 04年度以前	ドイツの経済Ⅰ ドイツの経済 a	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツの社会を特徴づける際に、しばしば sozial という言葉が用いられる。sozial は、日本語で「社会的」と訳されることが多いが、「社会全体の」という中立的な意味以上のもの、「社会福祉的な」「社会公正の」「社会的弱者に配慮した」という意味を持っている。ドイツの国家は「社会的国家」(Sozialstaat)、経済のありかたも「社会的市場経済」(Soziale Marktwirtschaft)と特徴づけられる。社会福祉局 (Sozialamt)、低所得者向け福祉住宅 (Sozialwohnung)、生活保護 (Sozialhilfe) など、挙げれば切りがない。低所得者などへ公共料金を減免する制度などは、「sozialなものだ」ということになる。sozial は、福祉を重視するドイツ社会を理解するときのキーワードのひとつであろう。</p> <p>では、sozial とはどのような考え方なのか？ 歴史的にどこから来ているのか？ どのような形で具体的にみられるのか？ 今後、sozial なあり方はどのように変化していくのか？ この講義では、こうした問題意識を持ちながら、政治・経済・社会の様々な局面を取り上げて sozial の問題を考えていくこととしたい。</p> <p>春学期は、現代ドイツの在り方を局面ごとに取り上げて検討していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 労働の領域 (1) 労働組合 3. 労働の領域 (2) 企業内のあり方 4. 労働の領域 (3) 社会全体での労働の強さ 5. 教育・職業訓練の領域 (1) 教育 6. 教育・職業訓練の領域 (2) 職業訓練 7. 福祉の領域 (1) 6つの福祉団体 8. 福祉の領域 (2) 福祉ボランティア活動 9. 非営利団体 (Verein) の活動 (1) 10. 非営利団体 (Verein) の活動 (2) 11. 協同組合の領域 (1) 12. 協同組合の領域 (2) 13. まとめ ドイツの sozial なあり方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献)</p> <p>G.A.リッター『社会国家』晃洋書房、1993年。</p> <p>福島清彦『ヨーロッパ資本主義』講談社、2002年。</p>		出席、期末筆記テスト	

05年度以降 04年度以前	ドイツの経済Ⅱ ドイツの経済 b	担当者	大重 光太郎
<p>ドイツの社会を特徴づける際に、しばしば sozial という言葉が用いられる。sozial は、日本語で「社会的」と訳されることが多いが、「社会全体の」という中立的な意味以上のもの、「社会福祉的な」「社会公正の」「社会的弱者に配慮した」という意味を持っている。ドイツの国家は「社会的国家」(Sozialstaat)、経済のありかたも「社会的市場経済」(Soziale Marktwirtschaft)と特徴づけられる。社会福祉局 (Sozialamt)、低所得者向け福祉住宅 (Sozialwohnung)、生活保護 (Sozialhilfe) など、挙げれば切りがない。低所得者などへ公共料金を減免する制度などは、「sozialなものだ」ということになる。sozial は、ドイツ社会を理解するときのキーワードのひとつであろう。</p> <p>では、sozial とはどのような考え方なのか？ 歴史的にどこから来ているのか？ 具体的には、社会のなかでどのような形で表れているのか？ 今後、sozial なあり方はどのように変化していくのか？ この講義では、こうした問題意識を持ちながら、政治・経済・社会の様々な局面を取り上げて sozial の問題を考えていくこととしたい。</p> <p>春学期は領域ごとの特徴を見たが、秋学期は取り組みのテーマにそってみたい。その上で、sozial/social の在り方についてヨーロッパ諸国と比較したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 具体的取り組みの事例 (1) 3. 同 (2) 4. 同 (3) 5. 社会国家 (Sozialstaat) の歴史 (1) 6. 同 (2) 7. 同 (3) 8. 同 (4) 9. 他のヨーロッパ諸国の事例 (1) イギリス 10. 同 (2) フランス 11. 同 (3) スペイン・イタリア 12. EU レベルでの取り組み 13. ヨーロッパのなかのドイツ： sozial の将来 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>G.A.リッター『社会国家』晃洋書房、1993年。</p> <p>福島清彦『ヨーロッパ資本主義』講談社、2002年。</p>		出席、期末筆記テスト	

05年度以降 04年度以前	ドイツの法律 I ドイツの法律 a	担当者	常岡 史子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、ドイツ民法典の編纂過程を歴史的視点から学習する。ドイツ民法典は長らく日本の民法の形成と発展に大きな影響力を持ってきた。本講義ではそのもととなったドイツ法典編纂の準備と実施の過程及びそれらを取り巻く状況を、ドイツの法史とともに、政治、経済、思想、社会運動の諸背景にも言及しつつ考察する。</p> <p>各回の授業について、受講者全員が事前に配付した資料を読み予習済みであることを前提に講義を進める。受講者数の多寡にかかわらず、授業時間中に指名して質問することがあるので、準備の上出席されたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ドイツ民法典概論 2 ドイツ民法典編纂史概説(1) 3 ドイツ民法典編纂史概説(2) 4 歴史法学派と法典編纂(1) 5 歴史法学派と法典編纂(2) 6 ドイツ民法典と帝国議会(1) 7 ドイツ民法典と帝国議会(2) 8 詐欺・強迫理論とドイツ民法典の編纂過程(1) 9 詐欺・強迫理論とドイツ民法典の編纂過程(2) 10 ドイツ民法典への強制的「民事婚」と有責主義的離婚制度の導入(1) 11 ドイツ民法典への強制的「民事婚」と有責主義的離婚制度の導入(2) 12 ドイツ民法典への強制的「民事婚」と有責主義的離婚制度の導入(3) 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料等を適宜配付する。参考文献：石部雅亮編『ドイツ民法典の編纂と法学』九州大学出版会		基本として、学期末に行う定期試験の成績をもとに評価する。授業時間中に自ら進んで質問に答えた者については、その発言回数・内容を成績評価に際して加味する。	

05年度以降 04年度以前	ドイツの法律Ⅱ ドイツの法律 b	担当者	宗田 貴行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の目的】 わが国の法体系は、ドイツの法律を参考にしたところが大きいので、わが国の法律を理解するためにはドイツ法の理解が大いに助けになります。卒業後に民間の企業の法務部や営業部などで働くことを考えている学生に対して、どのようなマーケティング方法が法に触れるものであるのかについて理解できるように、ドイツを中心とした世界の諸国の不招請勧誘規制、特に迷惑メール規制に関する知識を提供することを目的としています。</p> <p>【講義の概要】 まず、不招請勧誘とはなにか、とくに迷惑メールとは何かについて、拙著を使って、OECDやEUの報告書や、わが国の総務省や経済産業省や内閣府の報告書をもとに説明します。次に、これらの報告書や判例等を参考にして、日本の不招請勧誘に対する法的規制を説明します。さらに、諸外国すなわち、アメリカ、EU諸国などの不招請勧誘に対する法的規制を説明した上で、ドイツの法的規制を説明します。最後に、わが国の不招請勧誘に対する法規制の今後の課題を説明します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ドイツ法への招待・ドイツ法の調べ方 2 不招請勧誘規制・迷惑メール規制とは 3 日本の規制① 4 日本の規制② 5 日本の規制③ 6 アメリカ・EUの規制 7 ドイツ以外のEU諸国の規制 8 ドイツの規制① 9 ドイツの規制② 10 ドイツの規制③ 11 世界の最新の展開 12 日本の課題 13 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宗田貴行『迷惑メール規制法概説』レクシスネクシス・ジャパン 2006年。各自必ず購入してください。		出席を重視します。出席状況とレポートで成績を決めます。	

03年度以降	ドイツ語講読(歴史)	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本国憲法には日本人の定義はないが、基本法はドイツ人とは何かを規定している。「ドイツ国籍を有する者またはドイツ民族に属する被追放者または、その配偶者もしくは卑属として、1937年12月31日現在のドイツ国領域内に受け入れられた者」である。</p> <p>19世紀のドイツは海外移民の国であったが、中世以来、ドイツはまたロシアを含む東方に多数の移民を送り出してきた。ナチ体制下の占領地域でこの人々の子孫は強制的にドイツ国籍を与えられ、ドイツの敗戦後、今度はドイツ人であるがゆえに故郷を追われた。被追放者法(1953)は、ドイツ民族に属する者とは「その者の出身地域において自らドイツ民族に属するものであることを自認していた者であり、その自認が、血統、言語、教育、文化などの一定の要素によって確認される者」と規定している。この規定は、「被追放者」を受け入れるために、この法律がナチ体制下のドイツ民族の規定を引き継がざるを得なかったことを示している。</p> <p>この人々のうち、故郷にとどまることができた人々も1990年の再統合以降、さまざまな理由からドイツに移住してきている。テキストを読むことを通じてこれまで日本では比較的知られることのなかったこれら「被追放者」や「帰還者」の歴史を学びたい。</p>		<p>第1回 講義 第2～13回 テキストを読む</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
こちらで教材を用意する		学期末の筆記試験と平常点をあわせて評価する	

03年度以降	ドイツ語講読(歴史)	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>移民法の改正、第二回統合サミットにおける国民統合計画の策定、そして移民法改正を不満とするトルコ系移民団体のサミット出席拒否など、昨年度も移民をめぐる状況は揺れ動いた。</p> <p>血統主義の国といわれるドイツでは2001年の国籍法改正によって生地主義を一部加味し、帰化条件を緩和した。さらに2004年には、違憲とされた2002年の移民法に代わる新たな移民法を成立させたが、この新しい移民法もEU指令により昨年、再び修正を余儀なくされた。EU統合は現在、法や政策を一体化させようとするレベルにまで進んでおり、EUがどのような移民政策をめざしているのか必ずしも明確ではないが、ドイツのなかのトルコ人だけに絞っても、彼らを囲む状況はきわめて錯綜している。いくら国籍法に生地主義を盛り込んでも、歴史に基づかない原則には「ドイツは移民国家ではない」として「帰国か統合か」を迫る従来の固定観念をくつがえすだけの力はない。穏健イスラム主義を標榜しながらもEU加盟をめざすトルコ本国の正義進歩党政権の政策も移民に対する外圧として作用する。帰化して一種の二級市民となることを拒否して、イスラム主義に傾斜する勢力は本国政府とどのような関係を切り結ぶのか。このようなトルコ系移民を囲む複雑な状況を今年度もテキストを通じて追っていききたい。</p>		<p>第1回 講義 第2～13回 テキストを読む</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
こちらで教材を用意する		学期末の筆記試験と平常点をあわせて評価する	

03年度以降	【火2】ドイツ語講読（歴史）	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ベルリンにあるドイツ歴史博物館は中世から現代までテーマごとに38の部屋に分かれて展示され、ドイツの歴史を概観できるようになっています。</p> <p>授業では、簡易版のガイドブックをテキストにこの博物館を見学しているつもりでいくつかの展示室を覗いていきたいと思います。参加者それぞれが、ドイツ史の知識の中で欠けている部分を補い、もしベルリンの歴史博物館を訪問する機会があれば、展示物を実際に見る際にドイツ史への理解がより深まることを期待しています。</p> <p>各テーマにつき見開き2ページ（イラスト・写真付き）、比較的平易なドイツ語ですから、一授業時間で1テーマのペースで進みます。</p> <p>最初の授業時間に、テーマの選択、授業の進め方についての説明、分担テーマを決めますので、参加を希望する学生は必ず参加してください。（参加人数によって、授業の進め方などは変わる可能性があります）。</p>		<p>テーマ（例：選択肢）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Napoleon und Europa 2. Vormärz 3. Die Revolution von 1848 4. Auswanderung 5. Nationalbewegung und Reichsgündung 6. Das Bismarckreich 7. Industrienation 8. Die Arbeiterbewegung 9. Die wilhelminische Gesellschaft 10. Deutsche Weltpolitik 11. Der Erste Weltkrieg 12. Die Revolution 1918/19 und die Anfänge der Weimarer Republik 13. Das Ende der Weimarer Republik 14. Die NS-Diktatur 15. Der Zweite Weltkrieg 16. Besatzungszeit und Kalter Krieg 17. Die Mauer 18. Die Bundesrepublik 1949 bis 1990 19. Die DDR 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Bilder und Zeugnisse der deutschen Geschichte （プリントで配布します）		授業への参加度と試験	

03年度以降	【木2】ドイツ語講読（歴史）	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツの学校では、どのような教科書を使って歴史を勉強しているのでしょうか。この講読の授業では、実際にドイツの中学生が使っている歴史の教科書を読みます。</p> <p>単に歴史の知識を得るためではなく、日本の歴史教科書と比較することによって、ドイツの歴史教育の目的や歴史認識の一端を探ることが、学習目標です。</p> <p>ドイツの歴史教科書は非常に多種多彩で、各学校類型によって内容もかなり異なります。ギムナジウム用の教科書は資料が多くて難しいと思われるので、できるだけ平易な中等教育用の教科書（実家学校または基幹学校用の教科書）から選びますが、それでもかなり悪戦苦闘する覚悟が必要です。</p> <p>初回の授業で、授業の進め方について説明しますので、参加を希望する学生は、必ず出席してください。</p>		<p>参加者の協議によって読む範囲を決めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Geschichte entdecken 8 または 9（予定） プリントして配布します。</p>		<p>授業への参加度と試験</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（歴史）	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツないしオーストリアの歴史に関する文献を読み、ドイツ語の上達を図ると同時に歴史の知識を獲得していく。「ドイツ語を読む」と同時に「ドイツ語で読む」ことをめざす。		テキストを読み進める。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布		出席・発表・試験による	

03年度以降	ドイツ語講読（歴史）	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布		出席・発表・試験による	

03年度以降	【水2】ドイツ語講読（社会）	担当者	A.ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業ではドイツ語の簡単なテキストを読む予定です。</p> <p>Es sollen verschiedene deutsche Texte über die deutsche Gesellschaft gelesen werden. Es sind leichte, kurze, gut verständliche Texte ganz verschiedener Sorten: Zeitung, Zeitschrift, Internet, Lehrbuch, usw. Im Unterricht sprechen wir (im Prinzip) auf Deutsch über die Form und den Inhalt der Texte.</p> <p>Wichtig ist die Bereitschaft zu aktiver Mitarbeit.</p>		<p>初回の授業で希望を聞いて決めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>コピーの配布をします。</p>		<p>出席、レポートなど</p>	

03年度以降	【金2】ドイツ語講読（社会）	担当者	A.ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Diese Veranstaltung ist für StudentInnen, die schon etwas über Europa und die EU wissen.</p> <p>Das Thema ist die deutsche Gesellschaft in der EU.</p> <p>Es sollen verschiedene deutsche Texte über Deutschland in der EU gelesen werden.</p> <p>Es sind kurze, gut verständliche Texte ganz verschiedener Sorten: Zeitung, Zeitschrift, Internet, Lehrbuch, usw.</p> <p>Im Unterricht sprechen wir (im Prinzip) auf Deutsch über die Form und den Inhalt der Texte.</p> <p>Wichtig ist die Bereitschaft zu aktiver Mitarbeit.</p>		<p>Hintergrund und Entwicklung der EU,</p> <p>Einfluss der EU auf die deutsche Gesellschaft,</p> <p>Konsequenzen der EU und der Globalisierung auf die deutsche Gesellschaft.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーの配布をします。		出席、小発表、レポートなど	

03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は比較的平易なテキストを媒介にして、</p> <p>1. 文法知識の徹底と強化</p> <p>2. 将来に通じる読解力、訳出力の養成</p> <p>を図ります。学年が上がるうちに「いつの間にか、同級生よりも後れをとってしまった。」とか、「きちんと突き詰めて文法知識を習得したい。」等の思いを抱いている人に好適かと思えます。</p> <p>その一方、ドイツ語検定2級合格も視野に入れて、種々の注意を喚起します（従って、すでに2級を取得している人は初回の講義の様子を見て履修するかどうか決めて下さい）。</p>		<p>春semesterにおいては前述の 1. に重きを置きます。</p> <p>文法中心の内容となるため、いわゆる速読・多読の形式は採りません。すなわち典型的と目される文例を選択し、これを対象に冠飾句の付け替え、語順の入れ替え、そして時制、態の変換等を反復的に演習します。これらは、たいてい直接の指名によって口頭（ないしは板書）での解答を求めることとなりますから、受講者の皆さんは突然の指名にも応えられるよう常に緊張感をもって出席して下さい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントにて配布。</p> <p>独和辞典及び文法の資料（手持ちの参考書等）必携。</p>		<p>出席重視。また、semester終了時にペーパーテストを実施します。なお正当な理由が不明なまま、連続して3回以上欠席した場合は名簿から削除することがあるので注意。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋semesterでは引き続き文法上の演習を繰り返しつつも、重点は先述の 2. に移行させます。</p> <p>というのも、テキストの概要を把握すること自体は可能でも、これをあたかも「もともと日本語で書かれていた。」かのように他人に理解してもらうのは、なかなか容易なことではありません。個々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが必要です。本講義ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の堆積」からの脱却を図ります。</p>		<p>履修者の人数、春semester中の受講者の有りよう（＝予・復習に対する誠意や、私の発した設問に対する解答内容）、また春semester終了時に実施したペーパーテストの結果を踏まえ、適切な進・深度を決定します。（早い話が、顔ぶれとそのレベルに応じて柔軟に対応するということです。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春semesterに同じ</p>		<p>春semesterに同じ</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1) この授業では、現代のドイツ社会や EU（欧州連合）諸国の現状を理解するうえで参考となるドイツ語記事を読んでいます。</p> <p>2) ドイツ語講読と言え、難しい専門書に書かれたドイツ語文の和訳作業をみなさんは連想すると思います。しかしながら、この授業では、ドイツの放送局が、ドイツ語学習者用に開発した総合教材を使用することにより、参加者は翻訳練習だけではなく、時事的なテキストを耳からも「味わう」ことが可能になります。</p> <p>3) 受講の前提条件とはしませんが、効果的な予習・復習を可能とするためには、自宅でのインターネット接続環境、WMV/MP3 ファイルの再生環境が必要となります。</p> <p>4) さしあたり春学期は、「ドイツの社会問題（失業、年金、環境、教育、少子化、極右、若者）」などに関するドイツ語記事を教材とする予定です。</p> <p>5) 必要に応じて、対象テーマについての予備講義や受講生によるグループ発表なども随時実施する予定です。</p>		<p>1) ドイツの放送局 Deutsche Welle が作成したサイト、<http://www.dw-world.de>から、適当な記事を抜き出し、解説を加えながら読み進めていきます。</p> <p>2) 春学期は全部で 13 回の授業を予定しています。</p> <p>3) <u>初回の授業では「授業の進め方」「サイトについての解説」「自宅での予復習の方法」「評価方法」などについて詳細なガイダンスを実施しますので受講希望者は必ず出席してください。</u></p> <p>4) 記事の長さにもよりますが、授業は 2、3 回で 1 テーマのペースですすめていく予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材/資料のコピーを配布します。自宅でのインターネット接続環境、WMV/MP3 ファイルの再生環境が必要となります。		学期末に筆記試験を実施します。出席状況と授業への貢献度(訳担当)もあわせ、総合的に評価します。	

03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1) 春学期と同じ要領で、ドイツの放送局が、ドイツ語学習者用に開発した総合教材を使用しながら、現代のドイツ社会や EU（欧州連合）諸国の現状を理解するうえで参考となるドイツ語記事を読んでいます。</p> <p>2) 受講の前提条件とはしませんが、効果的な予習・復習を可能とするためには、自宅でのインターネット接続環境、WMV/MP3 ファイルの再生環境が必要となります。</p> <p>3) 秋学期は、「ヨーロッパ（ドイツ）の外国人問題」、「ヨーロッパ（ドイツ）とイスラム」、「グローバル化」などを主要なキーワードに設定して、勉強をすすめていく予定です。</p> <p>4) 必要に応じて、対象テーマについての予備講義や受講生によるグループ発表なども随時実施する予定です。</p>		<p>1) 春学期と同様に、ドイツの放送局 Deutsche Welle が作成したサイト、<http://www.dw-world.de>から、適当な記事を抜き出し、解説を加えながら読み進めていきます。</p> <p>2) 秋学期は全部で 13 回の授業を予定しています。</p> <p>3) <u>初回の授業では「授業の進め方」「サイトについての解説」「自宅での予復習の方法」「評価方法」などについて詳細なガイダンスを実施しますので受講希望者は必ず出席してください。</u></p> <p>4) 記事の長さにもよりますが、授業は 2、3 回で 1 テーマのペースですすめていく予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材や資料のコピーを配布します。自宅でのインターネット接続環境、WMV/MP3 ファイルの再生環境が必要となります。		学期末に筆記試験を実施します。出席状況と授業への貢献度(訳担当)もあわせ、総合的に評価します。	

03 年度以降	ドイツ語講読(社会)	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ヘルムート・シュミット（旧西ドイツの連邦首相）の論文『グローバル化』（Globalisierung : Politische, ökonomische und kulturelle Herausforderungen 1999）の原典講読を通じて、真の意味における国際化とは何かを政治的・経済的・文化的次元から考察して行きたい。</p> <p>比較的平易なドイツ語で書かれているので、文法の基礎的な知識と辞書を丹念に引くという人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 以下は『グローバル化』の原典講読につき、略す。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の書を購入するのが望ましいが、一応原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味したうえで、筆記試験の成績で評価する。100 点満点中 10 点を出席点とする。	

03 年度以降	ドイツ語講読(社会)	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続いて、ヘルムート・シュミットの上記の論文『グローバル化』の原典講読を通じて、真の意味における国際化とは何かを政治的・経済的・文化的次元から考察して行きたい。</p> <p>比較的平易なドイツ語で書かれているので、文法の基礎的な知識と辞書を丹念に引くという人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 以下は『グローバル化』の原典講読につき、略す。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の書を購入するのが望ましいが、一応原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味したうえで、筆記試験の成績で評価する。100 点満点中 10 点を出席点とする。	

03年度以降	卒業論文	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>4年間の勉強の総仕上げとしての卒論を充実させ、形式的にも内容面でもしっかりした卒論が提出できるようにする。</p> <p>1. まとまった量の論文を書くためには、それに応じたストラテジーが必要である。そのために必要な基本的な考え方や実践法を学ぶ。</p> <p>2. 論文作成においては、個々人の研究・作業はもとより、主査および「卒論指導」担当教員や参加学生同士の対話も重要な要素である。分野を越えた対話を通して、お互いに刺激し合い、卒論のレベル向上を目指す。</p> <p>3. 基礎演習・専門演習で培ってきた社会に出てからも必要になる企画力・研究調査力・プレゼンテーション能力などの、大学レベルでの仕上げを目指す。</p> <p>*注意* この授業は、主に論文のリテラシーや研究調査の進め方に関する授業を行う。論文の専門的な内容については、あくまでも指導教員との綿密な話し合いや教員からの指導が不可欠である。</p>		<p>詳しくは第1回授業時に説明する。</p> <p>第1回 導入 第2回 卒論の基本的なリテラシー 第3回 論文題目提出のための準備1 第4回 論文題目提出のための準備2 第5回 文献目録の作成 第6回 卒論作成のためのストラテジー1 第7回 卒論作成のためのストラテジー2 第8回 卒論作成のためのストラテジー3 第9回 卒論作成のためのストラテジー4 第10-13回 中間報告会</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて指示		卒業論文の評価と連動して評価される。なお、卒業論文の評価においては、この授業への参加および主査との話し合いの程度、中間報告、提出後の口頭試問の結果がともに考慮される。	

03年度以降	卒業論文	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期を参照。</p> <p>秋学期では、論文の仕上げ・提出に向けての授業、口頭試問が中心となる。</p>		<p>第1回 夏休みの成果報告 第2回 論文のストラテジー1 第3回 論文のストラテジー2 第4回 論文の日本語1 第5回 論文の日本語2 第6回 要約のためのドイツ語1 第7回 要約のためのドイツ語2 第8回 要約のためのドイツ語3 第9-13回 口頭試問</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		春学期を参照。	

2008年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学者用)

03年度以降（春）	総合講座（移民、難民、移住労働者——人の移動と文化の変容 I）	担当者	コーディネーター：若森栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>なぜ今日大量の移民、難民、移住労働者が世界中で発生しているのだろうか？彼らはどのような生活を送っているのだろうか？彼らに関する世界の対策はどのようなものなのだろうか？アメリカでは？ヨーロッパでは？日本では？また私たちはどのようにこの問題に向き合っていくべきなのだろうか？</p> <p>彼ら移民、難民、移住労働者たちは困難な状況に置かれているにもかかわらず、新しい、独創的な文化を創造しつつある。それはどのようなものなのか？</p> <p>この講座ではこのような問題を世界的な視野のもとに考えていく。この問題に直接関わっている外部講師の方にも話していただく。学生諸君にこの問題を自分のこととして考えてもらいたいと思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) グローバリゼーションと人の移動（廣田） 2) 外国人児童へのNPO支援活動—草加市の経験から—（築瀬 [草加市国際相談センター]） 3) ビルマ人の語る日本での生活（チンカン [ビルマ市民フォーラム]） 4) 日本で生活している移住労働者の現状と問題点（鳥井 [移住労働者と連帯する全国ネットワーク]） 5) ヨーロッパ連合（EU）と移民問題（廣田） 6) 移民社会オーストラリア（竹田） 7) アジア諸国からの移民と出稼ぎ労働者（金子） 8) ドイツにおける移民の歴史と現在（増谷） 9) 移民はどこから来たか（フランスの場合）（井上） 10) 移民、難民、人身取引に関する国際機関の活動（橋本 [国際移住機関]） 11) 教科書のなかの移民、難民、移住労働者（黒田） 12) アフリカの「国家」再考—破綻国家と紛争（佐野） 13) ドイツの亡命知識人—ベンヤミンとフランクフルト学派（工藤） <p>なおこのプログラムは細部で変更されることがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の際、指示する。		<ol style="list-style-type: none"> 1) 毎回授業の終り 10 分を使って講義のまとめを書き、提出する（40%）。 2) マークシート方式の学期末試験を行う（60%）。 	

03年度以降（秋）	総合講座（移民、難民、移住労働者——人の移動と文化の変容 II）	担当者	コーディネーター：若森栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>なぜ今日大量の移民、難民、移住労働者が世界中で発生しているのだろうか？彼らはどのような生活を送っているのだろうか？彼らに関する世界の対策はどのようなものなのだろうか？アメリカでは？ヨーロッパでは？日本では？また私たちはどのようにこの問題に向き合っていくべきなのだろうか？</p> <p>彼ら移民、難民、移住労働者たちは困難な状況に置かれているにもかかわらず、新しい独創的な文化を創造しつつある。それはどのようなものなのか？</p> <p>この講座ではこのような問題を世界的な視野のもとに考えていく。この問題に直接関わっている外部講師の方にも話していただく。学生諸君にこの問題を自分のこととして考えてもらいたいと思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) 移民国家アメリカの歴史と現状（高橋） 2) 合衆国市民をパフォーマンスする（高橋） 3) フランス・サルコジ政権の移民政策（井上スズ） 4) アフリカ難民はなぜ生まれるのか—国際協力の視点から（JICA 米崎） 5) 「アフリカの角」地域の難民・国内避難民（佐野） 6) とんりの難民と私たち—日本での難民支援の現場から（伴 [難民支援協会]） 7) EU 拡大とドイツ労働市場（大重） 8) ドイツ移民としてのトルコ人の生活の実際（飯嶋） 9) 外国における母語の意識（岡村） 10) 移民と文学—アゴタ・クリストフの場合（若森） 11) オーストリアにおける移民の歴史と現状（古田） 12) Global woman—移民の女性化（上野） 13) もうひとつの「グローバリゼーション」（若森） <p>なおこの授業計画は細部で変更されることがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の際、指示する。		<ol style="list-style-type: none"> 1) 毎回授業の終り 10 分を使って講義のまとめを書き提出する（40%）。 2) マークシート方式の期末試験を行う（60%）。 	

03年度以降（春）	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム（OS） OSの基礎概念、OSの役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10 コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11 機械翻訳システムの演習 12 インターネット上の多言語処理技術 13 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

03年度以降（春）	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータ・ネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で最低限に必要な情報リテラシー、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータ・ネットワーク(通信)、情報倫理、パソコンの基礎知識についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 OSの基礎—OSの目的とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3 ネットワークシステム 4 インターネットの仕組み 5 インターネットブラウザ・メール・情報検索 6 情報倫理と情報セキュリティ 7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定 8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成 9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用 10 レポートの作成—文章校正、長文作成 11 パソコンの基礎知識 12 情報技術の応用 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		各担当教員の指定する評価方法に従ってください。	

03年度以降（秋）	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータ・ネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で最低限に必要な情報リテラシー、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータ・ネットワーク(通信)、情報倫理、パソコンの基礎知識についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 OSの基礎—OSの目的とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3 コンピュータ・ネットワーク 4 インターネットの仕組み 5 インターネットブラウザ・メール・検索 6 情報倫理とセキュリティ 7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定 8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成 9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用 10 レポートの作成—文章校正、長文作成 11 パソコンの基礎知識 12 情報技術の応用 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		各担当教員の指定する評価方法に従ってください。	

03年度以降（春）	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)と、プレゼンテーションソフト(MS-PowerPoint)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用（1） 6 関数の利用（2） 7 関数の利用（3） 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション作成1－スライドの作成、プレゼンテーション方法 10 プレゼンテーション作成2－アニメーションの設定 11 プレゼンテーション発表1 12 プレゼンテーション発表2 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（秋）	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)と、プレゼンテーションソフト(MS-PowerPoint)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用（1） 6 関数の利用（2） 7 関数の利用（3） 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション作成1－スライドの作成、プレゼンテーション方法 10 プレゼンテーション作成2－アニメーションの設定 11 プレゼンテーション発表1 12 プレゼンテーション発表2 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（春）	情報科学各論（初級・プレゼンテーション）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、指定されたテーマに従って書籍やインターネット等を用いて情報収集を行い、またプレゼンテーションソフトを使って発表用のスライドを作成する。同時に、ワープロで発表原稿も作成する。その後、実際に発表を行い（聞き手も含む）、プレゼンテーションの経験と技術を積み、ゼミなどの発表で、就職の面接で、そして社会に出てから役立つコミュニケーション技術を習得することを旨とする。</p> <p>受講上の注意：<u>ガイダンスには必ず出席すること。</u> 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 プレゼンテーションとは 3 プレゼンテーションソフトの基本操作 4 課題1 5 発表（1-1） 6 発表（1-2） 7 課題2 8 発表（2-1） 9 発表（2-2） 10 課題3 11 発表（3-1） 12 発表（3-2） 13 まとめ（プレゼンテーションの反省） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と発表（聞き手も含む）で総合評価する。出席と参加状況は特に重視する。 最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。</p>	

03年度以降（秋）	情報科学各論（初級・プレゼンテーション）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（春学期同様）</p>		<p>（春学期同様）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（春学期同様）</p>		<p>（春学期同様）</p>	

03年度以降（春）	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（秋）	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級—プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際に2回のプレゼンテーションを行い、経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. 第1回プレゼンテーション 8. 第1回目プレゼンテーションの評価 9. 個人プレゼンテーションへの準備 10. 個人プレゼンテーションへの準備 11. 個人プレゼンテーション 12. 個人プレゼンテーション 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級—プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際に2回のプレゼンテーションを行い、経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. 第1回プレゼンテーション 8. 第1回目プレゼンテーションの評価 9. 個人プレゼンテーションへの準備 10. 個人プレゼンテーションへの準備 11. 個人プレゼンテーション 12. 個人プレゼンテーション 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級—万能ツールとしての Excel）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、表計算ソフトウェアとして知られている Excel の、単なる表計算機能だけではなく、他の様々な便利な機能を紹介していきたいと思っています。</p> <p>Word の作表機能ではなかなか難しい表を作る作表機能や名簿作成、財務計算以外の関数機能、データベース機能という便利な使い方を紹介していきたいと思っています。特に教職を目指している学生の皆さん向けに、成績処理を具体例としてあげていきたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと Excel の概要 2. 作表機能を例としての基本操作 1 3. 作表機能を例としての基本操作 2 4. 作表機能を例としての基本操作 3 5. 成績処理を例としての応用操作 1 6. 成績処理を例としての応用操作 2 7. 成績処理を例としての応用操作 3 8. データベース機能 1 9. データベース機能 2 10. グラフ作成機能 11. アンケート処理 12. その他の応用例 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内で紹介した機能を包括的に使用した課題。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級—万能ツールとしての Excel）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、表計算ソフトウェアとして知られている Excel の、単なる表計算機能だけではなく、他の様々な便利な機能を紹介していきたいと思っています。</p> <p>Word の作表機能ではなかなか難しい表を作る作表機能や名簿作成、財務計算以外の関数機能、データベース機能という便利な使い方を紹介していきたいと思っています。特に教職を目指している学生の皆さん向けに、成績処理を具体例としてあげていきたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと Excel の概要 2. 作表機能を例としての基本操作 1 3. 作表機能を例としての基本操作 2 4. 作表機能を例としての基本操作 3 5. 成績処理を例としての応用操作 1 6. 成績処理を例としての応用操作 2 7. 成績処理を例としての応用操作 3 8. データベース機能 1 9. データベース機能 2 10. グラフ作成機能 11. アンケート処理 12. その他の応用例 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内で紹介した機能を包括的に使用した課題。	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級－Word を使いこなす）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義ではマイクロソフト社の Word を使って、コンピューターライティングの実践を行う。特に文系の学生がレポートや論文を書く際の技術を具体的に学んでいく。</p> <p>もともとこのソフトはレポートや論文を執筆するのに特化したものではなく、我々が行う作業にとっては余分な機能がいくつもある。しかし作表や図像の取り込みなどを用いることによって説得的な文書を作ることが可能であることなど、その長所を生かした上で、あくまで実践的な作業に終始したい。</p> <p>なにぶん一般的な使用方法ではなく、教師独自の強引な使い方(?)をする可能性があるのでは、覚悟してもらいたい。</p>		<p>1回 導入のための説明</p> <p>2回 論文の表紙などの作り方（ワードアートなど）</p> <p>3回 アウトラインに沿った執筆 1</p> <p>4回 アウトラインに沿った執筆 2</p> <p>5回 脚注およびインデント 1</p> <p>6回 脚注およびインデント 2</p> <p>7回 図表の作成 1</p> <p>8回 図表の作成 2</p> <p>9回 図表の導入 1</p> <p>10回 図表の導入 2</p> <p>11回 グラフの導入(エクセルとの連携)</p> <p>12回 グラフの導入(エクセルとの連携)</p> <p>13回 (予備日)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書などは授業開始日に指示する。		出席とレポート	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－Word を使いこなす）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ内容		春学期と同じ内容	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ評価方法	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級－HTML 正しく伝えるために）	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：ホームページは、閲覧者のパソコンによって表示のされ方が大きく異なる。全てのパソコン上で同じように表示されるページを作成することは技術的に不可能である。従ってこの講義では、できるだけ多くのパソコン上で最低限の情報を正しく表示させるための方法論について、実際にホームページを分析したり作成したりしながら考えていく。</p> <p>対象者：ホームページの作成方法について、最低限の知識を持っている人を主な対象とする。全く知識がない人でも受講できるが、評価などは他の人と全く同一基準で行うので注意。</p> <p>必要なもの：自宅にパソコンがなくても問題ないが、携帯電話向けのサイトを作成するので、ホームページを閲覧することができる携帯電話が必要（通信費は各自負担）。ホームページ作成ソフト類は不要。</p> <p>その他詳細： http://www.birdcompany.ch/ 参照。</p>		<p>(1) ガイダンス (2) www の仕組み、ファイルの種類と必要なソフト、プラグイン、文字コード、機種依存文字、ブラウザの問題 (3) HTML の基礎の確認(1) (4) HTML の基礎の確認(2) (5) 課題① (6) ディレクトリ構造、様々なリンク設定、フレーム (7) ナビゲーションとサイト構造 (8) 課題② (9) ホームページ作成ソフトとその問題点、pdf の利用 (10) css と javascript (1) (11) css と javascript (2) (12) 携帯向けサイト (13) 課題③</p> <p>なお、初回の授業には必ず出席すること。風邪などで出席できなかった場合でも1週目のうちに担当者までメール等で連絡すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
主にプリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席点、提出課題、リアクションペーパーによる。定期試験は行わない（卒業再試験も行わない）。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML 美しく見せるために）	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：春学期は最低限の情報を正しく伝える方法を学ぶが、秋学期はそれをふまえて、より美しく見せる方法を学ぶ。</p> <p>対象者：春学期と同じ。</p> <p>必要なもの：自宅にパソコンがなくても問題ないが、携帯電話向けのサイトを作成するので、ホームページを閲覧することができる携帯電話が必要（通信費もかかる）。ホームページ作成ソフト類は不要。また、秋学期には画像処理を行うので、デジカメまたはカメラ付き携帯電話を持っていることが望ましい。</p> <p>その他詳細： http://www.birdcompany.ch/ 参照。</p>		<p>(1) ガイダンス (2) レイアウトの基本、フォントの扱い (3) 色の特性、配色の基本 (4) 課題① (5) 画像ファイルの特性 (6) 画像処理 (7) アイコン・ロゴの作成 (8) 地図の作成 (9) 課題② (10) フォトアルバムの作成 (11) javascript の利用 (12) 課題③(1) (13) 課題③(2)</p> <p>秋学期からの受講も可能だが、春学期に扱った内容については知っているものとして話を進めていくので、各自自習しておくこと（希望すればプリント類を配布、質問にも答える）。また、春学期同様、初回の授業には必ず出席すること。風邪などで出席できなかった場合でも1週目のうちに担当者までメール等で連絡すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
主にプリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席点、提出課題、リアクションペーパーによる。定期試験は行わない（卒業再試験も行わない）。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級—HTML応用1)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人(FTPの理解を含む)を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： <u>ガイダンスには必ず出席すること</u>。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTMLとFTPの復習(1) 3 HTMLとFTPの復習(2) 4 インタラクティブなページ(HTMLとCGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript(1) 7 JavaScript(2) 8 JavaScript(3) 9 JavaScript(4) 10 CGIの利用 11 総合課題(1) 12 総合課題(2) 13 鑑賞・報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用Webにて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点(課題の途中経過を含む)で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。 最低限のルールやマナー(禁飲食等)を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。</p>	

03年度以降（秋）	情報科学各論(中級—表計算応用 1)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は MS-Excel（表計算ソフト）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel でデータ処理を行う過程において、計算式や関数などを利用するが、毎回同じ一連の操作を繰り返して行う必要性が発生する場合がある。そのような場合、同じ一連の操作内容を記録・登録することで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。この機能を「マクロ」機能という。</p> <p>基本的なマクロの作成を通して、これまで習得してきた Excel の基本操作をスキルアップする、またマクロ機能で自動的に作成される VBA(Visual Basic for Application)の基礎を理解することを目的とする。</p> <p>初回の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 2 計算式および関数の復習 3 マクロ機能について 4 簡単なマクロ（成績処理）の作成と実行（1） 5 簡単なマクロ（成績処理）の作成と実行（2） 6 第1回目課題の作成 7 VBAの基礎（1） コードの入力 8 VBAの基礎（2） コード入力で簡単なゲームを作成する 9 第2回目課題の作成 10 マクロ（テーブル参照）の作成と実行（1） 11 マクロ（テーブル参照）の作成と実行（2） 12 最終課題の作成（1） 13 最終課題の作成（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 初回の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を配布する。 		授業中に指示する課題（30%）と出席状況（20%）と最終課題（50%）で総合評価を行う。	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級－ 自然言語データベース（コーパス）の処理技法入門1）	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 この授業では、言語が機械（コンピューター）可読の資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考えることを目的とする。</p> <p>【概要】 コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が生かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがわかってくるということがある。たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ 10 は何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。 本授業では、さまざまなジャンル、モード、発話者から集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コーパスとは何か 3. コンピューターの基本操作: テキストエディタ 4. コンピューターの基本操作: MS Excel 5. 高度な Web 検索方法 6. British National Corpus (BNC) の紹介 7. BNC を利用した語句検索 8. BNC を利用した共起検索 9. BNC を利用した話し言葉と書き言葉の比較 10. 映画コーパスの分析: 口語表現の特徴 11. 映画コーパスの分析: ジャンルによる違い 12. 映画コーパスの分析: 品詞分析 13. 最終レポートの準備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－ 自然言語データベース（コーパス）の処理技法入門2）	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 春学期に引き続き、コーパス分析を行うが、今学期は受講生が自らの英語学習あるいは英語分析に必要なと思われるコーパスを作成すること、それをより洗練された方法で分析する知識と方法を身につけることを目的とする。</p> <p>【概要】 WWW を中心とした膨大な電子データが身近にある昨今、それらはわれわれ英語学習者にとっての非常に有効な reference となり得る。本学期の前半は、受講生個々人が自分専用の参照資料となり得るようなミニ・コーパスの構築を行っていく。コーパスファイルを形成するにあたっての注意点、著作権への留意点を合わせて扱う。 後半は、英語を母語としない人たちの発話（書き言葉を含む）を集めた、いわゆる「学習者コーパス」の分析を行う。そこで、日本人に特徴的な語彙、文法の使用や誤りなどについて取り扱っていく。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい ※ 「情報科学各論（中級－自然言語データベース（コーパス）の処理技法入門1）」を受講していることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コーパスファイルの特徴 3. コーパスの作成（グループワーク）(1) 4. コーパスの作成（グループワーク）(2) 5. コーパスの作成（グループワーク）(3) 6. 自作コーパスの分析: 特徴語彙の抽出 7. 自作コーパスの分析: 品詞タグの付与 8. 自作コーパスの分析とレポートの準備 9. 学習者コーパスとは 10. 学習者コーパスの分析: 語彙的特徴 11. 学習者コーパスの分析: 文法的特徴 12. 学習者コーパスの分析: 特徴的な誤り 13. 最終レポートの準備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03年度以降(春)	情報科学各論 (中級一言葉の特徴をコンピュータで見る1)	担当者	吉成 雄一郎
講義目的, 講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析(下に続く↓)</p>		<p>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</p> <p>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</p> <p>3 計算(計算式, 計算式のコピー, セルの相対参照, 絶対参照等)</p> <p>4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に)</p> <p>5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に)</p> <p>6 Excel 関数(論理関数を中心に)</p> <p>7 Excel 関数のネスト(1)</p> <p>8 Excel 関数のネスト(2)</p> <p>9 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</p> <p>10 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</p> <p>11 データベース上のデータの蓄積方法</p> <p>12 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</p> <p>13 まとめと演習</p>	
テキスト, 参考文献		評価方法	
<p>テキスト, 参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降(秋)	情報科学各論 (中級一言葉の特徴をコンピュータで見る2)	担当者	吉成 雄一郎
講義目的, 講義概要		授業計画	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</p> <p>2 Access 上にデータを格納</p> <p>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</p> <p>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。</p> <p>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。</p> <p>6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習</p> <p>7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</p> <p>8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</p> <p>9 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</p> <p>10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー</p> <p>11 文の長さが意味するものー標準偏差・変動係数</p> <p>12 語彙密度・K 特性値</p> <p>13 まとめと演習</p>	
テキスト, 参考文献		評価方法	
<p>テキスト, 参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降（春）	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

03年度以降（秋）	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. インフレとデフレ 10. 政府債務と財政赤字 11. 経済成長論 12. 開放マクロ経済 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

シラバス ドイツ語学科

2008年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学 年	氏 名
学科	年	